

【記述 01】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について

(1)カリキュラムプランニングについて

③カリキュラムプランニングについて経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。

役に立ったことが具体的にあれば、お書きください

- ・ 1回きりで終わるのでなく何度も繰り返し階段状にレベルを上げていくつながりのある講義・実習プランを作れた。
- ・ 1期終了後、達成度を上げるためにカリキュラムの見直しをした。
- ・ 1週間ごとに実習のスケジュールを作る時、LSの順序を考える時のヒントとなっている。
- ・ 2.5か月の長期計画を立てる事が出来た
- ・ 2週間実習ではカリキュラム自体作ってなかったので意識改革になった。
- ・ 4年制と違い実務実習中心
- ・ GIO, SBOsを考慮して、自薬局の業務に合わせた実習内容を計画することができた。
- ・ GIO や SBOs,LS の考え方
- ・ GIOやSBOの考え方を知ることができた。
- ・ KJ法で問題点を解決する方法がある事を知った点。
- ・ LS, SBOsなどの用語を初めて知った
- ・ LSとSBO
- ・ LS や SBOsで計画が立てやすい
- ・ LS や SBOsについて、すぐ理解できた
- ・ SBO, LS などの意味が理解できた
- ・ SBOs LSなどの概念そのものを理解していなかったため、カリキュラムに基づいて11周の中で時間配分や指導者、場所などを具体的に配置するのに大変役に立った。
- ・ SBOsがあることで目標認識を持ち学生を育てていくことができる
- ・ SBOsなどの言葉を理解できる
- ・ SBOsの目標に対して具体的に LS を教えてゆく事により重複があっても、やり残しなく実習を進めることができた
- ・ SBO 他 専門用語・解釈などの基本事項など
- ・ SGD
- ・ SGD の行い方がわかった
- ・ SGD の進め方
- ・ SGOの組み立て方
- ・ WSでできた人脈
- ・ カリキュラムが決定された意義を考えることが出来たので、何を指導すべきかが明確になった。
- ・ カリキュラムが目標・方略・評価から成り立っている事が理解できた。
- ・ カリキュラムという言葉や、本当の意味を知らずに使っていたので、小さな積み重ねが時間経過とともに対象者を変化＝成長させているという実感を与えられるような立案の方法を念頭に実習に臨めたこと。
- ・ カリキュラムの意味が分かったことにより、どのようなことに主眼を置けばいいのか明確になった。
- ・ カリキュラムの意味を知ることや、実務実習において、目標設定、方略、評価という流れを常に念頭に置くことができた。
- ・ カリキュラムの作成について学ぶことができてよかった。
- ・ カリキュラムの成り立ちが分かったことで全体的な行動目標が見えてきた。
- ・ カリキュラムの中の GIO と SBOs の関係を理解でき、評価の仕方に役立った。
- ・ カリキュラムの定義について知り得た
- ・ カリキュラムの並べ方等の参考になった
- ・ カリキュラムの要素には、学習目標(GIO)・学習方略(SBOs)・教育評価の三要素があることを学びました。
- ・ カリキュラムの立て方
- ・ カリキュラムの立案により学習方略がわかり、目標に到達しやすいく。
- ・ カリキュラムは時間割としか思っていなかったため各ユニットごとに一般目標があり、そこに到達するために行動目標、学習方略、また到達度を測定して評価することを理解した。
- ・ カリキュラムプランニングすることで、自分の中での段どりの整理ができた。
- ・ カリキュラムプランニングを理解した事で、実務実習との関連付けができた。
- ・ カリキュラムプランに従って実習を計画的に実施
- ・ カリキュラムを決めていると、それに沿って実習できるのでよかったです。
- ・ カリキュラム改革の為の行動計画(具体例があればもっと分かりやすかったと思う)
- ・ カリキュラム作成の意図が読めるようになったので、それに沿った実習を行うことができた
- ・ カリキュラム内容を理解する上で、取っ付きやすい
- ・ グループディスカッションが問題解決の一つとして重要であるということがわかった。
- ・ コアカリキュラムを参考に、実習カリキュラムを組めたこと
- ・ こちらが思うほど学生は理解してませんという講義
- ・ スケジュールとカリキュラムの意味を混同せずに済んだ。
- ・ スケジュールの立案
- ・ スケジュール作成に参考となった。
- ・ スケジュール作成に役に立った
- ・ すでに用語が理解できていた
- ・ スムーズに行うことが出来ました。
- ・ スムーズに実習に入ることができた
- ・ スモールグループ・ディスカッションを通し、セルフメディケーションについて具体的にイメージできた。
- ・ それぞれの学習を行うタイミングを決める時に役立った。
- ・ ダウンロードしました
- ・ ティーチングに終始しないで、自分で考えてもらう。できた事を認めて褒める。
- ・ テーマについてスモールグループでディスカッションし方向を導き出して行く。
- ・ どのようなことか、忘れてしまっております。
- ・ どのようにカリキュラムができたのか理解でき、意図をくみ取ることができるようになった。
- ・ どのように実習計画が立てられたかを確認できた。
- ・ どのように取り組めば良いか理解できた。
- ・ どんな事を学んで来たかわかった。
- ・ どんな事を学んで来たかわかった。
- ・ なるべく漏れがないように気を付けて指導できる
- ・ ひとつひとつのカリキュラムの意義を深く考えて教えることができています。
- ・ プランニングのおかげで、順序だてて、スムーズに実習をすすめられた。
- ・ プランニングの流れ
- ・ プランニングを経験することで、カリキュラムの内容を再確認できた。
- ・ プランニングを行うことで実習にスムーズに入れた。
- ・ まだ直接指導を経験していないため、これから役立つと思っています。
- ・ まとめやすかった。
- ・ ミーティング等の準備が容易になったり、実習生が準備をしてから行えるので、筋道を立てて理解してもらいやすい。
- ・ モデル・コアカリキュラムが改めて理解できた。
- ・ やみくもに教えるのではなく、順序立てて教えることで、抜けることなく教えることができた。
- ・ やるべきことのリストアップ
- ・ ワークショップが昔過ぎて、詳細は覚えていないが、役だっているはず。

- ・ワークショップで、チーム力の大切さに気がつくされた。
- ・以前の製薬会社にいた時の復習になった
- ・一つの項目でもSBOやLSは多岐にわたる
- ・一日一日のスケジュール作成に利用した。
- ・一般目標(GIO)や行動目標(SBOs)や学習方略(LS)等をより意識して実習を実施
- ・一般目標と行動目標を整理して考えることができた
- ・一方的な教えではなく、疑問点を上げさせて、それについて考えさせることが出来た。
- ・一方的に指導するのではなく、双方よく話し合って理解度を確認したうえで実習を進めていくことができる。
- ・何もしなければ実習しなかった、ということに後でなってしまうと思います
- ・何をしたら良いのかが、漠然とわかった
- ・何をすべきか、具体的に分かった
- ・何をどう支援するのか、どう評価するかはっきりしてきた。
- ・何を実習するか明確となり指導しやすかった
- ・過程の大切さを学ぶことで感じ、学生の成長を喜べたこと。
- ・我々の学生時代は SGD などの経験がなかったので、今の学生達のシステムが一部理解できた
- ・会社として統一したカリキュラムを指導薬剤師が分担して作成した。
- ・各SBOsに評価方法 到達目標に対する考え方
- ・各 SBOs 毎のより効果的な教育計画・方略を立て、実践する事が出来た。
- ・各カリキュラムの目的を理解することができた上で指導ができた。
- ・確かな行動目標を達成することが教育であるという視点。
- ・学んでいくペース配分が掴みやすい
- ・学習すべき内容の量や質が学習終了時に期待される成果と関連していなければならない。
- ・学習すべき内容を確認することができてよかった。
- ・学習のプロセスが理解でき、評価を行う上で役立った。
- ・学習のプロセスを考慮し、プランニングを行なうことができた。
- ・学習者が主体であり内容の量や質が適切になるように、また成果が得られるよう考えて行いました。
- ・学習方法を角度を変えて捉える事を実践できた。
- ・学生が、自分の能力と実務との差が激しいと思いこんだ時、適切な目標とその進行を立て直せた。
- ・学生が興味のある分野を先にプランニングした
- ・学生が大学で学んでいることについて理解できた
- ・学生さんを指導するときはまず褒めること。
- ・学生と同じ目標を持つ
- ・学生にディスカッションさせる時に学んだ技法等を使って行った。
- ・学生に合わせてプログラム内容を変更すること。
- ・学生に指導する事柄の順序の目安に役立った。
- ・学生に対する教える立場をよく理解できた
- ・学生に対する向き合い方は参考になりました。
- ・学生に知識を教え込まず、学ばせる姿勢で携わることや上手な叱り方のコツなど
- ・学生に目標をもって実習に望ませる。
- ・学生に問題提示させ考えさせながら教えるという事。
- ・学生のスケジュール作成時
- ・学生の授業なので偏りの少ない実務実習を心がけ出来た。
- ・学生の習熟度に応じたプランの作成
- ・学生の理解度に応じてカリキュラムを構成することができた。
- ・学生の理解度に合わせたプランニング変更がしやすい
- ・学生の理解度に合わせ実習を進めることができる。(3期)
- ・学生の立場になった考え方、目標を到達するための手順、手腕、導き方などを構築していくやり方を教わり、役に立った。
- ・学生の立場を理解することができた。
- ・学生への指導のやり方
- ・学生への問いかけ方の基本がわかった
- ・学生個々の状況に合わせて勤めていくという点。実際思った以上に基礎知識がない学生もあり、授業までの期間に大きな差が出た。
- ・基礎知識から調剤業務を経てカウンターでの服薬指導を習得するまでの流れ
- ・基本的な考え方が理解できた。
- ・期待する結果を得るための方法の組み立てを理解することが出来た。
- ・技能 講義など項目をわけて実習をすすめることができた
- ・客観的に考えること
- ・逆に、現場に求められていることが、やや、見えた(目的、指針)
- ・教えたことより、実習生が理解したということが重要
- ・教えるスピード・内容に再確認出来た。
- ・教えるのではなく、学生自らが学習する環境を施設内につくることができた
- ・教えるポイントがはっきりした。
- ・教える事で自分の業務を見直せた
- ・教える側全員が、教育の捉え方について理解した上で、指導にあたること。
- ・教育の方向性がわかった。
- ・教育評価の方法
- ・教育用語やプランニングの流れがわかりやすかった。
- ・教授錯覚について、特に注意することができた。
- ・業務に追われ、忘れがちであった倫理規定をじっくり考えられ、いつも実習では最初にゆっくりその話ができるようになった
- ・具体的な事例を取り扱っていたので、そのまま実習に応用できた
- ・具体的に行う内容が理解できた。
- ・系統だてて教えることを意識した。
- ・経験していなければプランニングは難しかったと思う
- ・計画・目標を明確にすることが出来た
- ・計画がうまく立てれた
- ・計画が整理されることで2カ月半の実施がスムーズにできた
- ・計画を立てやすくなる。
- ・計画立てて指導を行う事で内容に流れを作ることができ指導しやすかった。
- ・現行のカリキュラムがどのようなことに基づいて作られているのかを理解した。
- ・現行のカリキュラムがどのようなことに基づいて作られているのかを理解した。
- ・現在の薬学教育の現状が少しだけ分かった
- ・現場でプランニングする為の参考になった。
- ・効率よくカリキュラムをこなせるようになった
- ・向上度を測るためのプログラミングという観点
- ・考えさせて理解してもらうこと
- ・考え方
- ・考え方
- ・今、参考にしてしているカリキュラムがどういう手順で作られたかがわかり、今までより理解が深まった
- ・今の薬学生の教育内容の一端を見ることが出来た。
- ・今まで、自分が関わりの薄かったカリキュラムについての理解を深める事が出来た。
- ・今やっていること(実習)が何のためにやっているかを示すことができた。
- ・最近の講義方法を受講出来て、勉強になりました。
- ・作成する時に、流れを考えてプランすることができていると思う
- ・参加者に病院薬剤師が多く、病院中心のカリキュラムで参考にならない
- ・指導システム作成に役立った。
- ・指導システム作成に役立った。
- ・指導するということがよく理解できた。
- ・指導する上でどのような指導の仕方をすればよいかその参考

にはなった。

- ・指導する上で指針となった。
- ・指導する側は教えたつもりになりやすく、指導された側は分かっていない場合が多い。従って、毎回、学生にはアンケート調査を実施するようにしている。
- ・指導といっても、一緒に学ぶ姿勢
- ・指導の順序建てが出来た
- ・指導プランの作成に役立った
- ・指導項目の抜けがないか確認できる。
- ・指導者の学生への理解度と学生の理解度との違いの大きさ
- ・指導内容の質と学生のモチベーションの向上に役立った。
- ・指導方法の認識
- ・指導方法の認識
- ・施設内のスタッフの協力を仰ぐため、指導薬剤師がカリキュラムプランニングを経験していることが重要だと実感した。
- ・私自身がカリキュラムのプランニングを理解した上で、実習生の2カ月半を流れとしてみることができた。
- ・事前に行うことで、実際の作成の際にイメージが湧きやすかった
- ・事前の実習課題を作成するのに役立った。
- ・事前の学習が必要不可欠。目的が分かりにくく、内容がはっきりしない為、実習本番ではあまり役に立たなかった。
- ・自習の組み立て方が統一簡略化されたと思う
- ・自分たちで討論する必要性の順序だ
- ・自分の中で、実務を中心として理解していた実習指導を、教育を中心にした実務指導へと考え方を変えてくれた。
- ・自分の薬局用のカリキュラムを作るのに役立った
- ・実際にはコアカリキュラムを組み替えただけだが、表があっただけでかなり助かった。
- ・実際に教えなくてはいけなことが細部にわたり見えてきた
- ・実際の実習においてプランが立てやすかった
- ・実際の薬局の業務と関連付けられたこと。
- ・実際は細かすぎて、ワークショップ後期間が空いていたので、忘れていた部分もあった。
- ・実習が過不足無くできたと思う
- ・実習スケジュール立案の際、GIOを掲げ、どの様にクリアすればいいのかと考えて行ったので計画も立て易かった。
- ・実習の計画作成に役立った。
- ・実習の中に、講義だけでなく、SGD やシミュレーションなどの体験型実習をとり入れることで、より深い実習ができた
- ・実習の流れ、カリキュラムを進めていく上で役立った
- ・実習をどうすすめていくかで根本的なことがつかめた感じがする
- ・実習を行う上での考え方や、到達地点の目安になりました。
- ・実習を行う上で課題を到達するまでの細かい項目にそって指導できたこと
- ・実習を段階的に実施できた
- ・実習計画の組み立てをつくる上で参考になった
- ・実習項目、内容
- ・実習項目で具体的に店舗スタッフとどのような内容にするかを決めるのに役立った。
- ・実習項目の中で具体的な内容を決めて、実習をするにあたって、計画を立てていくときに役に立った
- ・実習指導内容とワークショップ内容は直接つながっていないと感じました。
- ・実習生がワクワクするような方法で実習をしてこうという、目標を持つことができました
- ・実習生が理解できないときは、違う方法にて実習させる。
- ・実習生の最終目標とそのステップが想像できるようになった
- ・実習生へのアプローチ方法が理解できた
- ・実習生への基本的な接し方が理解できた。
- ・実習生への教え方について
- ・実習生を実際に教える際、実務上、OJT 上では役に立ちませ

んでしたが、こういう風にかリキュラムを作っているんだという知識として知れてよかった。

- ・実習生を受け入れる上での、こちら側の態度
- ・実習前に実習生と話し合いをもつ時に、具体的な点まで論議することができた。
- ・実務に即したプランニングをする上で組み立て方の参考になった。
- ・実務実習での目標を決めること
- ・実務実習の進め方の目安になった
- ・実務実習の大枠を検討したとき、カリキュラムプランニングの手順を基本として考えた。
- ・実務実習の本をワークショップから帰って読んだら理解できた。
- ・実務実習は指導するものと思っていたが、共に学ぶことをよく理解、全般的に実務実習に役だっている。
- ・実務実習モデル・コアカリキュラムの方略を理解した上で利用するのに役立った。
- ・実務実習を行う上で漠然と存在した問題点をまとめるきっかけになった。
- ・実務実習を大きな視野でとらえることができた
- ・実務実習書のカリキュラムがどのようにして作られているかが分かっていることが大事かと感じました
- ・受けていなかったらまったくわからなかったのでよかったとおもいます。
- ・受け入れに先立ち実習の目的や手続の概要を知ることができたため、実習の立ち上がりがスムーズであったと感じている。
- ・授業の組み立て方
- ・習得しなければならない実習を漏れなく、確認しながら実習できるので必要だと思います。
- ・初めての实習で何から手をつけてよいか全くわからなかったときに、ワークショップで学んだことを思い出してカリキュラムを作成した。
- ・初めての受入だったため、安心できた。
- ・少しずつ薬の種類を覚えていった。
- ・新人教育
- ・人に教える事が初心者自分にとって、プランニングすることで整理でき、スケジュールをこなすことで実習を完了できた。
- ・人に教える方法がわかった
- ・人を成長させる上での過程やアプローチの仕方
- ・正しい流れでの立案を行うことにより、内容の関連づけなど理解しやすいと思う。
- ・生徒の性格、個性にあわせたカリキュラムのすすめかた。
- ・先に実習生受け入れをサポートしてからの受講でしたので、こうすればよりよいものができた、という視点で役立ちました。
- ・全社的にプランニングをするので、現場で考えることは一部だけである
- ・全体像を見て、現在の位置や状態を考えると参考に became。
- ・全体的な流れがよくわかった。
- ・他の薬局薬剤師、病院薬剤師、大学教員などと交流する機会がある為、それぞれの状況を聞くことができた。
- ・体験型の実習に必要な心構えを知ることが出来た
- ・大きな目標のために小さな目標を1つ1つクリアし評価していく考え方
- ・大きな流れをつかんで理解する考え方を学んだところ
- ・段階的にステップアップできるようなプランニングの立て方
- ・知っているだけではなく、実際に行ってできることが大切とわかった。
- ・調剤業務ちゅうでも実務実習が行えるようなカリキュラムプランニングが作成することが出来た。
- ・調剤業務の流れなど
- ・到達してほしいレベルに合わせた指導方法を段階的に行えるようになった。

- ・ 到達可能な目標を立てて何ができるようになっていくかを明確に示されること。
 - ・ 到達目標に対して具体的に何をやるか考えやすくなった
 - ・ 到達目標の意義の確認ができやすい
 - ・ 到達目標の設定が具体的になった
 - ・ 到達目標を具体的に知る事が出来る
 - ・ 頭で経験していたことでプランを立てやすかった
 - ・ 得意な分野ではない部分も、学生に一通りは経験してもらえた
 - ・ 難しい問題に対しては、アプローチ、視点を変えて実務実習を行った為、時間的余裕を持ってプランニング出来た。
 - ・ 日頃の業務の見直しが細部に渡ってできた。
 - ・ 日々の目標を確認することで、日常業務に埋もれずに行えた
 - ・ 日本薬剤師会のモデルカリキュラムが把握できた
 - ・ 日本薬剤師会作成指導の手引きを参考に実習を行い、時系列的に行うことができた。
 - ・ 日薬作成のモデルコアカリキュラムへの理解。
 - ・ 如何に教えたかではなく、学生が如何に理解できたかということとを、常に意識して臨むことができた。
 - ・ 濃淡はあるものの、カリキュラムを漏れなく実施できた
 - ・ 抜けがなくなる
 - ・ 必要に応じ、カリキュラムの変更を容易に行うことができた
 - ・ 評価がもつ属性
 - ・ 評価する上でフィードバック・形成的評価の実施
 - ・ 評価について理解できた
 - ・ 評価を行うにあたって、役に立った。
 - ・ 普段の店舗業務が実習内容そのものである、とわかったこと
 - ・ 複数人数の薬剤師で実習を担当しているため
 - ・ 物事の考え方、判断力、資質の向上
 - ・ 物事を順序立てて考えることを学んだ
 - ・ 平成16年度のWSではカリキュラムプランニングは実施されなかったが、問題解決の方法としてWSで学んだことが大いに役立った。
 - ・ 方略、SBOS等、用語の理解と具体的なプランニングについて
 - ・ 方略と評価の関係付けがスムーズに行えた
 - ・ 方略の作成において薬学教育の方法論として考えさせられた
 - ・ 褒める 指摘する 褒める で指導すること。
 - ・ 毎日のことなので事前の準備(プランニング)がないと日々の調剤の補佐だけで終わってしまうと思いました。
 - ・ 漫然と経験を積んで頂くのではなく知識、技能に加え患者、顧客、人間そのものに対する態度をカリキュラムを実践することで養うことができると考えられる
 - ・ 明確な教育目標を設定でき、到達度の評価が客観的に実施できた。
 - ・ 目的に達するための持って行き方について、役に立った。
 - ・ 目的を定めて問題点の有無を確認し解決方法に進む方策をたてること
 - ・ 目的を明確にしておくこと。
 - ・ 目標、方略、評価の三要素を常に頭に置くことで、日々の実習がやりやすかった
 - ・ 目標、方略、評価をきちんと判別するうえで役に立った。
 - ・ 目標・方略・評価の3つの要素が学習には必要であるという認識を持ったこと。
 - ・ 目標・方略・評価の三要素の中でも方略の重要性が理解できた
 - ・ 目標があって、方略ができるという考え方の順序が理解できた
 - ・ 目標をはっきりした。
 - ・ 目標が明確になった
 - ・ 目標とそれを実現するための方法を考えるという事。
 - ・ 目標に向かうための全体像が明確になる。
 - ・ 目標に到達するための方略について考える機会になった。目標、方略、評価の関連性、定義がわかった。
 - ・ 目標の設定 実習の方略
 - ・ 目標の設定の意義が理解できたと思う。
 - ・ 目標をきちんとたてられた。
 - ・ 目標を学生に伝える。
 - ・ 目標を明確にすることで学生、指導者の意識を共有することができました。
 - ・ 目標を理解でき計画がたてやすい
 - ・ 目標を立てる重要性
 - ・ 目標設定
 - ・ 目標設定に役立った
 - ・ 目標到達のためにひとつひとつのSBOの到達を確認しかつフィードバックしつつより高い目標へ進んでいく様指導する
 - ・ 目標一方略一評価の図式にあてはめて行ったほうがわかりやすい実習があった。(情報収集の項など)
 - ・ 薬学教育が教育者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスであると理解したこと
 - ・ 薬学生の目標を知る事により、SBOsが定まり、LSを検討、実施した。個人の理解度により流動的に対応することがやりやすいと感じました
 - ・ 薬学生実務実習指導の手引きの構成が理解できた
 - ・ 薬学部の学生を受け入れたことが初めてでしたのでとても参考になりました
 - ・ 薬局の役割、生徒に教えるべき点が明確になった。
 - ・ 薬局業務の流れが自ずと習得できる。
 - ・ 薬局内での新人研修への応用に
 - ・ 薬剤師の仕事について、素朴に考えることができた
 - ・ 薬剤師会やほかの薬局との連携によるカリキュラム実施
 - ・ 薬剤師会作成例を参考にしたが、学生の意欲を引き出すのに役に立った。
 - ・ 薬剤師倫理規定・医療の担い手としての薬剤師・実習目標を理解している
 - ・ 予め実習プランに必要な資料を事前に準備できるので、スムーズに実習できた。
 - ・ 予行練習になったと思います。
 - ・ 様々な所で「敢えて言えば」ということが結構あることを認識できたこと？
 - ・ 両方の立場を考慮してプランニングできた
 - ・ 漏れのない実習が行えた
- 【記述02】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
- カリキュラムプランニングについて
- ④カリキュラムプランニングについて経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。
- 活用された点が具体的にあれば、お書きください。
- ・ 「共に育つ」ということを意識できた。
 - ・ 「教える」といった、カリキュラム中心の受動的な教育法では学生の行動変容は期待できなかった。参加型としたカリキュラムで学生は行動変容できた
 - ・ 1日ごとのファイルを作り、資料を入れて説明できた。
 - ・ 1日のスケジュールの中になるべくいろんな分野を入れること
 - ・ 5年以上前に参加したWSなので詳しく覚えていない。
 - ・ GIO、SBO、LSにより限られた時間内で項目を実施できた
 - ・ GIO、ニーズに基づいてのテーマ決定、SGDでの目標、方略、評価、ロールプレイでのシミュレーションなど。
 - ・ GIOを掲げ実習計画を立て、一週間毎にクリアできたが見直しする事で実習行なえた。
 - ・ KJ法
 - ・ KJ法に基づいた学習ができた
 - ・ LSとSBIの違いなど

- ・LSとSBOの考え方は自分にとっては全くの新しい考え方だが、ただの詰め込みよりは効率的だった。
- ・OTCの販売練習などのロールプレイにも利用した。
- ・PNPの指導方法
- ・SBOsの具体的な設定。
- ・SBOsをこなしていけば、いつの間にかGIO達成につながるというところ
- ・SBOに基づき、実習を実施した。
- ・SBOに基づき指導を行った。
- ・SGD
- ・SGDでのプロダクツ作成、発表、修正⇒現場で活かしていく、というサイクルが出来た。
- ・SGDの実施法
- ・SGDの要領で学生とディスカッションが出来た
- ・カウンター業務において患者への接し方
- ・カリキュラムにそって教えていく事によって自然に項目ごとの目標に近づけていく事ができた
- ・カリキュラムのプランニングはもちろん大切だと思うが、業務内容や忙しさもまちまちなので、細かくカリキュラムを決められても達成度にはどうしてもむらが出ると思った。
- ・カリキュラムの困難度にあわせて、時間調節が出来、余裕を持って実習が出来た。
- ・カリキュラムの順番の変更・座学ではなくロールプレーを多くした
- ・カリキュラムの進行に従って設問を用意したが、系統立てて進行できて良かった。
- ・カリキュラムの内容をみんなにわかるようにして、到達したものに、チェックをいれていった。
- ・カリキュラムは、必要に応じて変更した。
- ・カリキュラムを上から順に教えていくのではなく、似た系統を組み合わせて教えていく点
- ・カリキュラム作りを、目標を確認しながら作っています。
- ・カリキュラム作成のイメージがしやすかった
- ・コアカリの到達目標に達するための当薬局オリジナルのカリキュラム作成に応用した
- ・コミュニケーション
- ・スケジュールの作成
- ・スケジュールを作成する時に目標や方略などの構造要素が関わっていることを理解しながら調整できたように思う。
- ・スタッフに理解を求めするための説明に活用した。
- ・ステップアップ式のスケジュール立案
- ・スモールグループディスカッションで自分の意見を出して話し合うようなことを取り入れるようにした。
- ・スモールグループディスカッションなどグループで協力して、発表する解決策が役立った。
- ・セルフメディケーション対応が、自施設では不十分なので、補うために使用
- ・タイムスケジュールとは分けて、到達度を見ながら修正していった
- ・ディスカッション、KJ法など
- ・ディスカッションによる振り返りと評価
- ・テストを頻繁に行った。
- ・どういう意図で、ということを考えながら行うことが出来ました。
- ・どのような分類があるか
- ・フィードバックの重要性を学んだので、適度な間隔をあけて行うことを心がけた。
- ・プランニングの考え方、進め方は常に活用している
- ・プランどおりにはいかないことが多いです。
- ・プランニングすることで実習の流れをつかみやすく、補足すべきことに気づくことができました。
- ・プランニングの際にSBOsに向けての方略の考え方
- ・プランニングをする時に全体の流れの把握と考慮ができた。
- ・プランに従って、教えた。
- ・プラン作成の基盤として念頭に置いた
- ・プログラムの作成
- ・ほとんどはテキスト参照で行った。
- ・ほめる、事の重要性
- ・まだ1人しか受け入れしてませんが、全般的に次回からはもっといい指導が出来ると思います。
- ・ワークショップから年数が経過し、記憶が薄れている。
- ・ワークショップで行ったテーマをそのまま実習でも活用できた
- ・ワークショップで実施したことにならない、考えたことをまとめて人前で発表させる実習を取り入れた。
- ・違う項目でも同様のSBOがあり違った面からも復習ができる
- ・一つの項目でも多方面から考える必要があること、発想の転換が必要であること等
- ・一回で実習生ができなかったとき、人を育てるといことはどういうことか、何回も思い出して辛抱よく方法をかえて指導した。
- ・一日の目標を決めて、それに対する学習の方法を示し、最後に自己評価をさせた
- ・一般的にはプラス因子を強めるよりもマイナス因子を弱めることを優先に考える
- ・一般目標(GIO)と行動目標(SBOs)を予めきちんと作成しておく事が、実習を効率的に進める上でとても重要だと感じました。
- ・一般目標(GIO)と行動目標の設定に活用
- ・一般目標や行動目標を示すことで何をどのように指導するかといった事が見えてきました。また、各店舗で到達しにくいSBOについてはきちんとGIO,SBOを示すことで他店舗でも実習がしやすくなりました。
- ・一方的に教えるのではなく、学生参加型教育である。
- ・何から教えたらいいかという点で活用した。
- ・何かをする時に、こちらから全て与えるのではなく、考えさせることの重要さがわかるよう、ディスカッションを取り入れた。
- ・課題や宿題を与えて、その習熟度に応じて到達目標を設定した。
- ・各項目の実習の順番や到達時期の設定など参考にできた
- ・各実習生各々の特性・技量に応じた具体的な課題・目標の検討
- ・学校薬剤師の仕事や休日診療の仕事など日時が設定されているものについては予定表に入れておける。
- ・学習のプロセスを段階的に指導することにより自分を見直すことができた。
- ・学習のプロセスを段階的に指導することにより自分を見直すことができた。
- ・学習方略を考える上で、ワークショップのことを思い出しながら立案した。
- ・学習目標、学習方略、教育評価について
- ・学生が我が薬局チームで活躍できるよう早期より意識している。
- ・学生がどの段階で躓いているのかを知ろうと思い
- ・学生とセルフメディケーションについて話し合う際、スモールグループ・ディスカッションの形式を参考にした。
- ・学生と話し合いながら問題を見つけ必要なカリキュラムへと調整するのに役立てた。
- ・学生に業務を体験させる際に注意点を明確にした。
- ・学生の自主性と考えをよく聞く体制をつくることができた
- ・学生の性質をまず観察し、活用する資料の種類を変えたり、目標の順番をあえて入れ替えて、難易度の高いものを先に示して意欲を出させたり工夫した。
- ・学生の理解度に応じてカリキュラムを変えていったことにより、実習全般を通してスムーズに進行することができた
- ・学生実習に、ディスカッションやディベートの時間を取り入れた
- ・基本的には神戸市薬剤師会作成のカリキュラム 当店の実情に合わせて変更する時
- ・既に指導薬剤師がいるので、補足する部分で活用した。

- ・共に学び、学習していくということ
- ・共に学ぶ姿勢を重視
- ・共に学ぶ姿勢を重視
- ・協力薬局との連携
- ・教育システムをうまく利用し、学生に接することが出来た
- ・教育とは受ける側の変化をもたらすものである。の教えに従い、自習期間の前後に薬剤師にとって大切に思うことを学生へ記録させています。確実に変化が現れております。
- ・業務手順の作成に活用
- ・具体的にはない。
- ・具体的に教育的立場で接することができた。
- ・繰り返し学習する
- ・形成的評価の具体的な考え方。
- ・形成的評価をする上で、週ごとの設定が役にたった。
- ・形成的評価を意識して行った
- ・経験を印象良くし、参加し、忘れないように工夫した
- ・計数・計量調剤の実習計画
- ・月間・週間スケジュール作成時に活用した。
- ・現在おこなっている事が、特定の目標を達成する為だ、という事を常に念頭に置きながら学習する事ができた。
- ・個々にカリキュラムを変更
- ・個々のSBOにこだわらず(初めての实習時にはこだわりすぎてスムーズではなかった)実習の流れの中で各SBOを逆にあてはめることが出来た。
- ・考えさせる、学習指導
- ・考えぬかれた上でたてられたプランだと理解して、大事でないものはないと感じながら教えている。
- ・考え方、まとめ方
- ・考え方の把握と到達度の確認
- ・項目を段階的にクリアしていく
- ・最後に褒める、まず考えさせる
- ・最初に体験させて失敗し、だんだん覚えさせていく
- ・仕事の計画性、フォローをしっかりすること。
- ・指導する上で学生の理解度の深度が浅い場合、気付かせるための多様な指導方法
- ・指導前の実習生の知識・技能について確認した後指導し目標に到達できたかを確認することができた
- ・支部で研修を立案する際に活用した。隠れたカリキュラムのプランニング
- ・試験のための設計図
- ・資料等が添付されているので利用させてもらった
- ・事前に作成したものを参考に、カリキュラムを作成できた
- ・事前に実習課題を作成するのに役立った。
- ・自店で目標を設定してそれを学生に伝えて物的資源を準備して実習してもらい 評価へとつなげた
- ・自分で11週の実習計画を立てた。
- ・自分で考えて学習するというのを学生にさせています。
- ・自分一人でカリキュラムをこなすのではなく、薬局のスタッフ全員で参加するという考えを決めることができた。
- ・実際に患者さんと触れ合う時間を長くし、学生のモチベーションを高めることは出来たと思います
- ・実際の業務内容と各LSの到達目標とのすり合わせを行い、別に講義の時間が必要な内容を把握する点
- ・実習カリキュラムを組む上で指針とした
- ・実習スケジュールの作成
- ・実習に何を行なうかの傾向
- ・実習のおおまかな流れが理解できたので、スムーズに指導に入れた
- ・実習の経過確認と、評価において活用できた
- ・実習の順序
- ・実習の順番を考えることに役立った
- ・実習の進み具合、理解度に応じて、方略を変更するときなど。
- ・実習は学生を主体として共に学ぶということに重点を置いた
- ・実習計画の作成、円滑に進めるにあたり問題点の洗い出し
- ・実習項目の洩れ、抜けの防止のチェック
- ・実習生が行動目標を達成できなかったときに方法を変えた目標を立案した
- ・実習生との共有のため
- ・実習生の実務体験による変容を促すため、模範的時間的割り振りは無視して実務体験時間に多くの時間を費やした。
- ・実習生の進行状況に合わせて、週や日々のカリキュラムを変更する時
- ・実習生を受け入れる上での、こちら側の態度
- ・実習全体を通じて、特に実習初期に大いに活用した。
- ・実習内容は活用したが、時間の配分は独自なものとした
- ・実習内容を徐々にステップしていった。
- ・実態に即したプランニングが出来た。
- ・実務実習生の変化を引き出すような行動に努めたこと
- ・週単位でのカリキュラム作成
- ・集合研修で在宅医療について講義するだけでなく、グループワークを行う。
- ・出来るだけ誤りがない様ピックアップする方法
- ・準備時間が足りず、一部しか取り入れられなかった
- ・順序立てて段階的に実施できたこと
- ・初回の学生への実習進捗目安
- ・上記と同じ
- ・上記の通り、学生にどの時期に何を教えるかの時間割のような表を配布した
- ・上記同じ
- ・説明や、講義的な実習ではなく、「学生自らが学び、習得する」という方針を貫くことができた。
- ・前回の教えた事が十分理解できているか確認しながら教えることが出来た。
- ・全てを活用しました。
- ・全体の流れが理解でき、押さえておくべきおポイントを中心に指導している。
- ・総合実習という最終目標に向かって、それぞれのSBOsがある事を、学生と共に認識できたから
- ・他の実務実習マニュアルと比較し、現場にあうよう変更できた。
- ・他の職種との連携を実習に盛り込む際に役に立った
- ・他の薬局実習生との合同討議実習に活用
- ・他施設に実習をお願いするときに、実習生が達成すべき目標について具体的に説明することができた。
- ・大学から示されたものに抜けがないように確認した
- ・単にコマ数を当てはめるのではなく、学習の深度を意識し段階的なスケジュールを組むことに役立った。
- ・段階的な学習
- ・段階的な進め方
- ・段階的な目標を定め、それに沿って到達させる方法を利用した
- ・知らないことできないことに不安げな学生に対し、先の成長の大切さを伝えた。
- ・知識技能態度がバランスよく身に着くように整理できた。
- ・調剤と服薬指導に於いて GIO と SBOsを定めて日々研鑽して実習できました
- ・調剤ミスや防止策など
- ・特定の分野の指導を行う際、目標・方略・評価を意識して指導にあたるように他の指導薬剤師と検討できた。
- ・奈良県から一緒に参加された先生から参考資料を教えていただき、その資料が大いに役立った。
- ・日・週・月単位で達成度をみなおすことができるようになった。
- ・日々のスケジュールを組む際、参考にした。
- ・日々の調剤業務やOTCの販売、患者からの相談などの業務を見直し、実習向けの「学習」に焼きなおした。
- ・日業のカリキュラムをベースに大まかな時間割を作った
- ・日業のカリキュラムをベースに大まかな時間割を作った

- ・ 日薬のスケジュール表
 - ・ 反復的に学習項目をプランニングした
 - ・ 評価時に成長度を見て評価できる
 - ・ 評価方法
 - ・ 評価法について、場合に応じた評価法で多面的に実習生を見られたと思う
 - ・ 物事を注意する時にまずほめてから注意すること
 - ・ 方略の順序を決定するときに活用した
 - ・ 方略を立てる際、他のユニットとの組み合わせなどに役立ったと思います。
 - ・ 毎週のカリキュラムを早く作れるようになったので、分かりやすく学生に示してあげられた。
 - ・ 網羅しなければいけない内容がわかってよかった。
 - ・ 目的と方略についての考え方
 - ・ 目標、方略、評価とそれぞれを考えて実習プランを立てられた。
 - ・ 目標→方略の流れは常に念頭に入れ、計画を立てた。評価までは難しい。
 - ・ 目標に到達するために、細かく方略を決めることが出来た。
 - ・ 目標の到達度の設定について
 - ・ 目標を決めて、じゃあどのように実習に取り組むか、実際学生にやらせると最終的には理解の内容が増えたようである
 - ・ 目標を明確にし、学習計画とその順次性を考慮しプランニングを行なった。
 - ・ 目標を与えて評価する。
 - ・ 問題の解決方法のひとつになった。
 - ・ 問題を解いてもらって理解度を確認した
 - ・ 問題点をあぶり出し、ディスカッションした
 - ・ 薬局に合わせたカリキュラムを組むことが出来た。
 - ・ 薬局の業務に合わせたスケジュールを組むためにカリキュラムプランニングの考え方を少し活用した。
 - ・ 薬局実務実習における 11 週間のスケジュール例
 - ・ 薬局製剤を作る際には、テストをする。
 - ・ 薬剤師会のモデルコアカリキュラムを基本活用した
 - ・ 優先順位が確認できた。服薬指導する前に、ロールプレイングをするなど。
 - ・ 理解の度合いを繰り返し確認することで測ることができた。
 - ・ 理解度、到達目標の確認でプランニングのやり直しで活用した。
 - ・ 理解度を上げて行く上でカリキュラムの繰り返しと組み合わせに活用した
- 【記述 03】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(2) 学習目標について
- ③ 学習目標の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。
- 役に立った点が具体的にあれば、お書きください。
- ・ 実習生と目標設定することで、実習生の自主性がでた。
 - ・ 「目標」の考え方
 - ・ GIO SBOsを実務実習に結びつけて講義することにより通常では触れないことも問題視できた
 - ・ GIO、SBOsというものがどういうものか理解できた。
 - ・ GIO、SBOsといった言葉だけが独り歩きしており、良く分かっていたが理解できた
 - ・ GIO、SBOsの言葉の意味だけは理解できた。
 - ・ GIO・SBOsと一緒に考えることによりカリキュラムをスムーズに進めることが出来たと考えます。
 - ・ GIO だけでなく、SBOsにおいても、全体的な目標から、個別に目標を立てることが出来た
 - ・ GIOとSBOsの違いについて理解することができた。
 - ・ GIOとSBOsを組み合わせることで、目標が明確になった。
 - ・ GIO に向けて SBOs をこないしていくことで達成感をその都度感じれるので効率よく1日を過ごせた。
 - ・ GIOをSBOsに落とし込み、時間・スケジュールに落とし込んだ
 - ・ GIOを達成するためのそれぞれのSBOsの必要性を実感しながら実習を行うことができた
 - ・ OTCの顧客用の提供文書作成させるため、インターネットから必要な情報を集めてもらった。
 - ・ SBOsの位置づけが理解できた。
 - ・ SBOsはひとつではない、という認識で対応できたこと
 - ・ SBOsを達成していくことでGIOに到達するということを知り、具体的な実習方法をイメージすることができた。
 - ・ SBOに基づき、目標設定した。
 - ・ SBOを考えながら目標作成した。
 - ・ ある程度は、実習の均一化を保てる。しかし学生に施設毎の特徴を活かした経験をさせる面では少し足かせになる部分もあるかもしれません。
 - ・ カリキュラムプランニングの際に大いに役に立った
 - ・ すいませんが、ほとんど忘れてしまっております。
 - ・ スケジュールが立てやすかった
 - ・ スケジュールを組むうえでどういったところに重点を置き指導したらよいかがよくわかった。まんべんなく指導が行えると思う。
 - ・ セルフメディケーションについて、より具体的にイメージできた。
 - ・ その日の学習の最終目標や方向性を認識させることができた
 - ・ それぞれに行動目標をたてられた。
 - ・ それぞれのSBO毎の到達目標が明記されていた点は参考になった。
 - ・ どこまでを目標にするか学生によって異なる様の場合によっては柔軟に対応する事も大切と感じた。
 - ・ どの程度まで理解してもらえば良いのか参考になった。
 - ・ どの内容をどの程度指導すればよいのか、目安として見える形があるとわかりやすいです。
 - ・ ニーズ(必要・要求)とつなげて目標設定を行い、学生に目指す方向を示しやすいということ。
 - ・ ハイリスク薬については副作用などの患者用の質問表を作らせ、理解の助けになったと思う。
 - ・ ピッキングなどの調剤手技の実習でも、あるべきゴール(目標)を設定することで、どこまで教えれば良いか理解できた
 - ・ まず、学生主体の立場を考えることができたこと
 - ・ モチベーションの向上に繋がった
 - ・ モデルコアカリキュラムに示されているGIOの意味するところを理解できた。
 - ・ レベルを学生に合わせるときに役立った。
 - ・ ワークショップが昔過ぎて、詳細は覚えていないが、役だっているはず。
 - ・ 医療従事者として薬剤師としての社会貢献について役立てた
 - ・ 一つ一つの内容が意味を持つことを学生に伝えやすくなった。
 - ・ 一週毎に何をクリアーするかと、小さい部分から考える方が計画が立て易かった。
 - ・ 一定の目標があると、学生と目的に向かって協調・共感でき、実習に有効だった。
 - ・ 一般目標と行動目標とを組み合わせることで目標が明確になる。
 - ・ 一般目標を設定した後、どんな行動目標や学習方略で行なうのか実習書等を見て、自分なりに少し考えるようになった。
 - ・ 一般目標を到達するためには複数の行動目標が必要
 - ・ 一方的に目標を決めるのではなく、学生の意見もとり入れた
 - ・ 何が出来るか考えることができた
 - ・ 何のために目標が定められているのかを理解できましたので、日々の業務(実習)でやるべきことが見えた。
 - ・ 何のために目標が定められているのかを理解できましたので、日々の業務(実習)でやるべきことが見えた。
 - ・ 何をすべきかが明確になった

- ・何を教えなければならぬか?の目安になった。
- ・何を行えば良いか明確になっており、実習を行う上での指標になった。
- ・何を伝えればよいのか理解していなければ、かつ目標がなければ11週乗り越えられないこと。
- ・何を目標としているのか明確であったので、教える順序がたてやすかった。
- ・課題に対して行動目標を話し合った
- ・概念を理解してきた
- ・街の薬剤師の仕事を見つけた。蚊の発生駆除(市役所に依頼)
- ・各個人に理解度の差もあり、現状に合わせたレベルでの目標設定が必要と思う。
- ・各項目を実施する前に実習生と学習目標が確認できた
- ・学習者がより望ましい状態になるように、どのような能力を習得しどんな事ができるようになったかを考えながら行った。
- ・学習者が実際に体験して学習していくことを重視した
- ・学習者の行動に価値ある変化をもたらすためには5つの要素(RUMBA)を満たすことが重要であるということ。
- ・学習内容のスケジュールを組み立てる時に参考になった
- ・学習目標があることで、実習生との方向性が一致する。
- ・学習目標が明確で、指導薬剤師だけでなく、多くの薬剤師に学生を担当してもらえた。
- ・学習目標が明確でなければ、自分の意図が確実に伝わらないということ。
- ・学習目標が有ることにより特化して実習を行える
- ・学習目標について
- ・学習目標のとらえ方に変化が出たように思う
- ・学習目標の作成する中で実習のイメージがわいてきた
- ・学習目標の瀬手知を段階的にできた。
- ・学習目標の設定の意義・重要性について理解したため、各SBOsの意義を考えながら実習を進めた。
- ・学習目標の内容について具体的に検討できたので、それを実習に生かすようにした
- ・学習目標は学習者に実際に示す事によって、指導者、学習者共に取り組みやすくなる。
- ・学習目標を具体的に設定することにより達成したかどうか評価がしやすくなった。
- ・学習目標を細かく立てることにより、指導内容が明確になる
- ・学習目標を作成することで実習内容をどのようにしていけばよいか考えることができた。
- ・学習目標を作成するとそのための知識、技能、態度・習慣を設定出来る。
- ・学習目標を設定することで、その日のうちに行うべきことが確認できた。
- ・学習目標を明確にすることで、実習者と指導者が進捗状況、達成感を共有できる。
- ・学習目標を立てることでモチベーションが高まった。
- ・学生が興味を持たない項目もあったが、学習目標があることにより取り組んでもらうことができた
- ・学生と意識の共有しようという認識ができた
- ・学生と一緒に目標(ゴール)の確認を出来る。
- ・学生と協議しながら実習を進めることが出来た。
- ・学生と指導薬剤師の双方に目標が明確化できた
- ・学生と話をする時にSBOsで話げできた。
- ・学生にしっかりと目標を明確に提示できる
- ・学生にも経験してもらえた
- ・学生によって能力や学習目標も違うため学生に合わせて学習目標を作成することができたと思う。
- ・学生によりレベルが全然違うので、人により目標を変えるのに参考にした
- ・学生に学習目標の意義を説きながら教えている。
- ・学生に期間を設けて目標を持たせた方が、実習を進めやすい。
- 達成感もあるためやる気が出ると思う。
- ・学生に具体的な目標の提示ができた
- ・学生に計画を示せるから
- ・学生に考えさせること
- ・学生に目的意識が芽生えた
- ・学生のモチベーションを上げる為に目標を設定することは大切でしたので役に立ちました
- ・学生のレベルに合わせて指導することが出来た
- ・学生の学習項目の理解度に応じた目標の設定
- ・学生の判断力を客観的にみること。
- ・学生の理解度
- ・学生の理解度
- ・学生の理解度に応じて、到達可能な目標を立てることの重要性を認識した
- ・学生自身でその日の目標をたててきていたため、比較的スムーズにSBOをこなすことができた。
- ・学生毎に考え方、進度に違いが有る為、各学生の最終目標に向けて、違うカリキュラムに変える事が出来た。
- ・学生用の時間割を作成するのに役立った
- ・基本に立ち返ることが重要であること
- ・基本的に全て
- ・既に実施している
- ・共に学び、共に育つ
- ・共通の理解が得られやすい
- ・教えなくてはならない項目がはっきりわかった事
- ・教える側にも、学ぶ側にも、非常に分かりやすいもので、活用法や、意義を理解することが出来ました。
- ・業務のなかでどのような形で行うか確認できた。
- ・業務の上でも目標を具体的にすることの大切さを学んだ
- ・業務の内容が漠然としているので、学習目標が設定されていて良かった
- ・筋道を立てて目標を設定できた
- ・筋道を立てて目標を設定できた
- ・具体的、到達可能な目標を持つことの意義が理解できたので、学生に段階的に目標設定をすることができる。
- ・具体的な指標が設定されることで評価の基準がシステム化されやすい
- ・具体的にいくつかのSBOsを設定し、それが達成できると自然と1つのGIOが達成できる仕組みが理解できた
- ・具体的にその日に何をやるかを前もって設定して、実習に臨めた。
- ・具体的にこれ!!というのはないが、全体的に目標の達成のプロセスが明確になったこと
- ・具体的に何を教えたらよいかの指標となった。
- ・計画を組みやすい
- ・計画立てるとき
- ・個々の実習を行う目的が学生に理解させやすかった。
- ・個々の目標がはっきりしていたのでとても参考になりました
- ・考える方向性についてわかりやすいと思う。
- ・考え方。
- ・行動目標を掲げたことで評価がしやすくなった。
- ・行動目標を全部クリアすることは難しく、またクリアできないからといって、一般目標に到達できないわけでもありません。
- ・講義形式をどれくらい取り入れるか
- ・項目別に実務実習内容がはっきりしているの、評価もしやすい。
- ・今まで漠然としていた指導方針や評価項目がかなり明確になったこと。
- ・最終目標を意識して、どこからはじめればよいか見当がたった。
- ・作成するまでの手順が分かった
- ・指導するほうにとっても目安になった。
- ・指導方針を他のスタッフにも伝え易かった。

- ・指導薬剤師が目標を理解して実習を行うことができた。
- ・指導薬剤師自身が到達目標の内容を理解するのに役立った
- ・指導漏れを防げる
- ・事前準備など非常に有意義であった
- ・事前準備など非常に有意義であった
- ・自分がどうなりたいのか、今現状でどこレベルか？方略を考えやすくなった
- ・自分が今、目標の何合目にいるかなど実感出来る
- ・自分たちの調剤過誤を未然に防ぐのに役に立ちました。
- ・自分たちの調剤過誤を未然に防ぐのに役に立ちました。
- ・自分で考えたことで、今の学習目標設定の難しさや一言一言の深みが分かった。
- ・自分の中で明確な目標があることで、学生を指導しやすくなる。
- ・自分の薬局での限界がわかる。
- ・自分の薬局での実習に合う目標を重視した
- ・実際に指導する上で、学習目標が明確であることが限られた実習期間にて学生が効率的に学ぶことができることを理解できていたためそのように進めることができていたこと
- ・実際行う内容の目的をしっかりと意識して、実習を行ってもらえた点
- ・実習スケジュールを計画的に行うのに役立った
- ・実習の成果を把握しやすい
- ・実習の目的が明確でない学生に目標を与えることができた。
- ・実習をロジカル(論理的)に進めることができた
- ・実習を行ううえで指導の方向性を決められた
- ・実習を行うにあたり必要な資料や器材などの準備に役立った。
- ・実習現場に置き換えての到達レベルの達成
- ・実習項目によって、学生がどのような行動をとってもらうか
- ・実習項目の中で項目ごとに知識・技能・態度に分類して考えられるので、到達の目安になった。
- ・実習手探り状態ながら、闇夜の灯台の如く思えたこともあった
- ・実習生が今やっているところがどこか分かるので、理解を助ける。自分が理解していることでそれが可能となった。
- ・実習生が達成すべき目標について、しっかり考えながら実習を進めていくことができる。
- ・実習生に対して具体的に次のステップを明示できる。
- ・実習生のモチベーションの維持
- ・実習生の理解度に対すると評価の基準になった
- ・実習内容を考え、準備をするための動機づけができた。
- ・実践しにくいと思われる SBOs
- ・実務実習の GIO は次代を担う、国民の負託に応えられる薬剤師を育てることと目標を設定したこと
- ・実務実習のコマ別の目標等を設定するときに活用した
- ・実務実習初年度で、参考にするものほとんど無い状態だったので、すべてが大いに役立ちました。
- ・実務実習生と学習目標を確認・訂正できた。
- ・常に一定の水準を保とうとする気持ちになった。
- ・人に教える方法がわかった
- ・設定項目が非常に具体的に示されていること
- ・全て役に立ちました。
- ・全体像を把握しながら進めることができた点
- ・全体的な目標かつ個別に目標をたてる事ができた
- ・全般的に項目が行き届いているので指標として良かった。
- ・多くの項目の整理に役立った
- ・大きなくくり、少し漠然とした一般目標をより具体的な行動目標に設定する方法。考え方。
- ・大筋の目標設定に役に立った。但し、店舗ごとのアレンジは必要のため、その点は各自で工夫を行った。
- ・達成がたやすくなく、達成できないほど高すぎもせずというところを意識して目標を設定できたと思う
- ・知識・技能・態度の三要素を確実に向上する為に、SBOs の設定は大変重要である事が分かりました。
- ・知識・技能・態度の三領域の認識。
- ・知識・態度・技能にいたる順序だて
- ・抽象的な言葉で説明をしても、それを具体的な行動におとしこめることができる
- ・調剤業務が少しずつ早まった。
- ・長期の実習になるので、最終目標にたいしてずれてしまうことを防止できたと思います。
- ・適切な時期を決めて目標を設定する基準とした
- ・当施設が離島にあるため出来ない内容があったが先に目標を決めることで過不足を少なくまとめることが出来た
- ・到達点が明確に分かった。
- ・到達度を記録していくことで、トータル的に見た到達度を確認することができた。
- ・到達目標を設定することが、実務実習を行う上で役立っていると思う。
- ・日々の学習目標の設定に役立った
- ・日本薬剤師会作成指導の手引きを参考に実習を行い、時系列的に行うことができた。
- ・能力高い、又は、向上意識をもつ学生には この手は役立つ
- ・漠然とした教育目標では、わかりにくいので一つ一つの組み立てとして役に立ったと思う。
- ・漠然と評価するのではなく、どの点が不足しているのか指導側も確認できる
- ・販売されている指導薬剤師のテキストの理解する上での基礎知識となった。
- ・煩雑な業務を整理して考える事ができるようになった
- ・評価の際の振り返り
- ・評価の方法と考え方
- ・評価をしやすい目標設定をする事
- ・評価を行う上での目安。実習を進行する上で取るべき時間の目安になった。
- ・忙しい日常業務の中で目標に沿うようなことを見つけ、別の角度から改めて薬局業務を見直せた
- ・本人の到達感があると思う
- ・毎日 SBOsを明確にして実習を行うことで、その日にすべきことがわかりやすくなった
- ・毎日の目標を設定することで意識を高めることができたように思う
- ・漠然と目標をたてるのではなく、何のための目標化を認識しやすかった。
- ・目的が明確でないと、2ヵ月半の長期実習においてブレないために必要。
- ・目標があると教えることをまとめやすくなる
- ・目標がないとあいまいになってしまうから。
- ・目標がはっきりしている事でプランニングしやすかった。
- ・目標が詳細すぎる懸念がありますが、実習内容を網羅するには重要と思われる
- ・目標が正しく設定出来ていないと、複数の指導薬剤師が指導する時に、連携した指導が出来ない。
- ・目標が設定されていることで、一方的に教えるのではなく、実習生の理解に応じた実習ができた。
- ・目標が達成できるようにと配慮できた。
- ・目標が分かれば方法を考える
- ・目標が分類化されている事で、評価がし易い。
- ・目標が無ければ指導もできない
- ・目標が明確で達成を実感できる
- ・目標が明確になったことで適切な学習内容を選択することが容易になった。
- ・目標が明確になり、指導する側も焦点を絞って教えやすい
- ・目標が明確になることで実務実習における学生の評価がスムーズに行えた。
- ・目標と実際に行うことが明確になり、やり易くなった。

- ・ 目標には、ニーズや成果を盛り込むべきことが分かったこと
 - ・ 目標の具体性がないと、流れでの実習になってしまう
 - ・ 目標の設定により、到達点が具体的になる。
 - ・ 目標の設定をどこまでにするか、学習を進めながら変更できた
 - ・ 目標の到達を確認するために重要な作業であることを認識し、実習以外の様々なケースにも応用できた
 - ・ 目標は高く掲げ過ぎず、RUMBA の法則がよいという点
 - ・ 目標をクリアできるかを考えて教えられた。参加するだけで終わらせないよう努めた。
 - ・ 目標をたてることにより向上性が高まったような気がします。
 - ・ 目標をたてることで、作業に意義を持たせることができた。
 - ・ 目標をとらえた実習ができた。
 - ・ 目標をまず設定して、それに向かって進む事の重要性
 - ・ 目標をもって学習する事で、自分で考えて、行動するようになる
 - ・ 目標を簡単な事に設定して出来れば褒める様にした。
 - ・ 目標を具体的に掲げること
 - ・ 目標を決めることで学習内容がきまる
 - ・ 目標を作成しておく事で、学生の達成度合いを測ることが容易だった。が文書化した目標作成まではしていなかった。
 - ・ 目標を作成することで、やるべき項目がよくわかった。
 - ・ 目標を作成することで実習の下地を作ることが出来た。
 - ・ 目標を持つこと自体が重要。学生にも話しやすい。
 - ・ 目標を常に意識することができた。
 - ・ 目標を常に学生に意識させた
 - ・ 目標を設定し、どう行動すれば良いか学生自身に考えてもらった。
 - ・ 目標を設定することがとても困難であること。具体的な理解しやすい目標設定が重要であること。
 - ・ 目標を設定することで実習生の意識が変わる⇒実習の内容がより効果的に伝わる
 - ・ 目標を設定することで実務実習が計画的に行えると思う。
 - ・ 目標を設定すると、次の課題を考えると役に立つ。
 - ・ 目標を設定するとこれから学ぼうとしていることの目標を理解しやすくなる
 - ・ 目標を設定する事で、やらなければならない事が理解できる
 - ・ 目標を設定する事で学生がスムーズに実習に取り組めた。
 - ・ 目標を設定する事は大事だが、その目標を達成する事が手段になってしまう実習はどうかと思う。医療者を育てる観点をもう一度考える必要があるのではないかと思う。
 - ・ 目標を定める事により、ぶれずに実習できた。
 - ・ 目標を提示することで、カリキュラムと薬剤師業務との結びつけができた
 - ・ 目標を明確にすることができた
 - ・ 目標を明確にすることで、学習方法の選択や資源の準備など計画しやすかった。
 - ・ 目標を明確にすることにより方略を考えやすくなる
 - ・ 目標を立てておけば、評価の目安にはなる。
 - ・ 目標設定するのにお互い(学生と指導薬剤師)が協力できる。達成度の共有など
 - ・ 目標設定の立案
 - ・ 目標設定をきちんと考えた指導が出来た。
 - ・ 目標設定をして実習計画を組み立てるとスムーズにいく。
 - ・ 問題項目分析
 - ・ 薬局の地域医療への関わりと薬剤師の参画
 - ・ 薬剤師に必要な項目・目標項目の確認が良くできた
 - ・ 用語等の内容がすでに理解できていた
 - ・ 理解度をみるのに役立っていた。
- 【記述 04】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
 - (2) 学習目標について
 - ④学習目標の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。活用された点が具体的にあれば、お書きください。
- ・ 「教育者としてどのように接すのか」など
 - ・ 「態度」「〇〇できる」という目標を意識して、学生主体の実習を組めた
 - ・ ③の質問と同じ質問じゃないですか？？
 - ・ 5年以上前に参加したWSなので詳しく覚えていない。
 - ・ GIO, SBOsという言葉を用い共通の土台で学生と話を進める。目標設定。目標を学生に合わせて変化させる。
 - ・ GIO と SBOsの関連付け
 - ・ GIOの到達がスムーズに出来た
 - ・ GIO を SBOs に落とし込み、時間・スケジュールに落とし込んだ
 - ・ GIOを常に意識することにより、現実の実習結果にふりまわされずに進められた(気がした)
 - ・ GIOを達成する為の SBOを自分なりに作成した(セルフメディケーション)
 - ・ GIO 達成にあたり、具体的に SBOs を挙げることで、実習を進めやすかった。
 - ・ RUMBA を考え、実習計画の修正を行なった。
 - ・ RUMBA を考えながら学習目標を立てること。
 - ・ RUMBA を念頭に入れて行った。
 - ・ SBOs にあう学習方略を考えた。
 - ・ SBOs に従って実習スケジュールをたてた これにより抜けがなかったと思う
 - ・ SBOsの個々の目標を見据えた実習ができたと思います
 - ・ SBOsの要約ができれば、どの位つづけるかの目安も立て易い
 - ・ SBOsを1つずつ達成できるように実習を行った。
 - ・ SBOsを常に念頭に置いて実習を進めることができた。
 - ・ SBOに基づき、実習を実施した。
 - ・ SBOを学生に示し、実習を行った。
 - ・ インシデントや疑義照会も出来るだけ参加させて対応させた。
 - ・ おおまかにみて、達成させる目標がたてられた
 - ・ カリキュラムの作成時・途中の見直し
 - ・ 患者
 - ・ コアカリがあることで現場での目標設定に役にたった
 - ・ コアカリキュラムの到達目標1つ1つが具体的にどのようにしたらよいか理解できた。
 - ・ コアカリキュラムをもとに目標を立てた時。
 - ・ ここから入力不可です。
 - ・ こちらが意識的に、頭で考え体で体験するという行動をとらせること
 - ・ ステップアップの仕方について
 - ・ セルフメディケーションにより OTC 薬の選択。
 - ・ セルフメディケーションの実習計画を立てる時や学生評価を行う時、作成した学習目標を参考にした。
 - ・ その日の始めに実習の目的をきちんと明示し、理解が図れるように努めた。
 - ・ その日の実習を進める前に、ある程度の目標を考えて臨む時。
 - ・ それぞれの週の LS の日割りスケジュールの作成
 - ・ できるだけ社内の指導薬剤師で協力し合い学生がワクワクできるような内容を作りました。子供のお薬教室、学生同士の研究発表会、症例検討会等
 - ・ どう教えれば効果的か
 - ・ どこに注目してカリキュラムを組めば良いかが分かりやすくなった
 - ・ どの程度到達すればよいかを明確にすることができた
 - ・ はじめに目標をたてることで方向がみえる。理解度の確認などがわかる。フィードバックができる。
 - ・ ひとつの流れのなかで、複数の学習目標に到達できることが

わかった。

- ・プログラムを作る参考
- ・ほとんど既存のスケジュールを利用したためあまり活用したとは言えない。初めてで戸惑った
- ・モチベーションの向上により経時的に指示しなくても自ら行動を起こすようになった。
- ・やはり、目標が明確になることで、こちらは何を指導すべきかが明確になった。
- ・より具体的な「動詞」を用いて行動しやすい目標を掲げる
- ・一日に数種類の SBOsを決めて、最終的に GIO に達するよう指導した
- ・一般目標と行動目標との組み合わせ
- ・一部の目標を学生の希望とすり合わせながら目標設定できた
- ・一方的に指示するのではなく、目標に到達できるように学生に考える時間を与えた。
- ・何をどのくらい教えるのかの目標が定まった。
- ・何を学ばよいかを伝えやすい
- ・何を教えるのではなく、どう理解させるかを考える上で大変活用しました。
- ・何を行えば良いか明確になっており、実習を行う上での指標になった。
- ・課題のテーマに使用
- ・各々の学習目標を見据えることで評価の基準に役立った
- ・各学生の薬局実務実習に対するニーズを知って指導すること
- ・各実習生各々の特性・技量に応じた具体的な課題・目標の検討
- ・学習目標の作成と評価の連動性の参考になった。
- ・学習目標の持つべき性格をふまえて作成
- ・学習目標はすでに設定されているので、新たに作成することはなかった
- ・学習目標への「理解」と「協力」を得やすく、学生実習の体制整備ができた
- ・学習目標を系統的に整理でき、偏った指導にならなかった
- ・学習目標を達成させるために必要な指導ができた
- ・学習目標を達成したか否かの評価がしやすい
- ・学習目標を到達させることは勿論だが、それを利用した新たな学習目標(情報システム管理・模擬処方箋の作成など)にも活用できた
- ・学習目標記述の為の動詞
- ・学生とこまめに・繰り返し話し合う事ができた。
- ・学生と意識の共有ができた
- ・学生と実習を行う上で論点をまとめること。
- ・学生と常に目標を確認しながらの実習を実施した
- ・学生にテーマを与える時
- ・学生にできる SBOs から実習を始めた
- ・学生により目標を変えた
- ・学生に具体的に考えさせることができた
- ・学生に事前に目標を提示することができた。
- ・学生に示した課題が、学生が目標を達成するのに有効な素材であるか？を吟味しながら進めた。知識・技能・態度・習慣のうち情意領域に分類されるものには、神経をつかった。RUMBAを意識して目標設定もした。
- ・学生に毎日学びの目標を立てそれを実行し、振り返るという PDCA サイクルにて学びを定着することができていること
- ・学生に目標を示しながら進めることができた
- ・学生のモチベーションの刺激。実現可能な目標の作成。
- ・学生のレベルの差があり、活用できたりできなかったりでした。
- ・学生の理解度に応じた目標設定を行うことで、カリキュラムの変更も含め臨機応変かつ合理的な指導が行えた
- ・学生の立場に立って目標設定をすることを心がけた。
- ・活用しないと評価もできない。
- ・患者さんと「家族」もしくは「介護者」とのかかわりを持つ実習をとりにれた
- ・患者さんに対する思いを実感する。
- ・基本的に何を習得させるかハッキリした
- ・既に実施している
- ・客観的に学習内容を点検し、満遍なく学習目標を達成させることができた。
- ・具体的に何を教えたらよいかの指標となった。
- ・繰り返し、今取り組む実習の目的は何かの振り返りに活用。倫理規定や綱領とも絡めた。
- ・計画が抜けることなく実行できた。
- ・結局どこかの薬局が作った本を適度に利用
- ・現実的であること・理解可能であること・達成可能であること。
- ・現場で最低限必要な目標に活用
- ・行動目標(SBOs)を着実に達成していく事で一般目標(GIO)の達成に至り、その積み重ねが実習生の着実な成長に繋がると感じました。
- ・行動目標にしたがって行うことで実習内容が学生にわかりやすく説明できた。
- ・行動目標を着実にツブしていくことで実習をこなすやすくなった。
- ・今までの知識詰め込み型では無く、実務主体の実習目標を目指した
- ・今日何を教えるか？と順序立てをする事が出来た。
- ・最終的な目標に対して、どういう行動・体験等行えばよいか、小さな目標を立てやすくなった
- ・細かい目標を達成していきながら、大きな目標のクリアをめざしていくように実習を進めていける。
- ・三領域を意識した。
- ・三領域を考えながら、学習目標に進むよう考えた。
- ・散剤の調剤技能の修得の中に、小児科の粉碎時の計算が効率よく確実にできたか？を判断基準に組み込んだ。
- ・散剤の秤量、分包のしかた。
- ・始めと終わりの成果をみるために。
- ・始めと終わりの成果をみるために。
- ・思ったほど活用できなかったが次につながった
- ・指導の手引を参考に目標設定を行った。
- ・施設サイドというよりも、学生に一定の指針を示すという点での意義があったように思われる。
- ・次の日に行う実習の事前準備
- ・自分が何をどの経緯まで教えたいのか、教えることによって学生は何ができるようになるのか等明確化することができた。
- ・自分では学習目標の作成は行わず、薬剤師会作成のものに従った
- ・自分の薬局でできることを目標に上げることができた
- ・実際の OTC 第 I 類に使用する顧客用提供文書を既にあるフォーマットを使い仕上げてもらった。
- ・実習のもれががようチェックできる
- ・実習の進捗によって、少しずつ内容を具体的にしていく。
- ・実習の方法と種類の選択
- ・実習期間のスケジュールを作る際に関連ユニットを意識して行えた。
- ・実習期間中、方針がぶれずに対応することができた。
- ・実習計画表の作成に活用
- ・実習生が目標を到達するために何を教えればよいかを考えて実習を進めていくことができた。
- ・実習生にどの程度まで理解してもらえればよいか参考になった
- ・実習生に具体的に目標を提示したことで自ら進んで取り組む姿勢が見られた。
- ・実習生自身が学習目標を達成できたかどうか自己評価していた
- ・実習中、体験・実習・見学してもらったことに目標を立てることで、何が出来るようになるのか得る事が出来るのか明確にできた。

- ・実習中期以降に、さらに深く実習していくとき、学習目標を学生自ら作成し援助した。・・・中だるみ防止になる。
 - ・実習内容として存在する各 SBOsが、クリアすることが最終目標に繋がることを認識してもらいやすかったように思う
 - ・実習内容の見落としが確認できる
 - ・実務実習としてどのくらい目標達成させるかを思案するのに活用した。
 - ・実務実習のプログラムを作成して、タイムスケジュールを組み、無駄のない実習ができた。
 - ・実務実習を行うための予備知識がワークショップしかなかった。
 - ・実務実習を先に経験したので、この講義を先に受けていれば、作成がスムーズにいったであろうと感じました。
 - ・実務実習初年度で、参考にするものほとんど無い状態だったので、すべてが大いに役立ちました。
 - ・習得すべき必須の基本となる事項が掲示されていたのでそれにそって行った。
 - ・週目標を決める
 - ・初回の学生への実習進度目安
 - ・徐々に理解度を上げていくようにした。
 - ・上記と同様
 - ・上記の通り、学生にどの時期に何を教えるかの時間割のような表を配布した
 - ・積極性の劣る学生に対して、今何を学習すべきか目標を明確に示し、繰り返し話しあうことで、学生のモチベーションが上がった
 - ・全て活用しました。
 - ・全体研修のテーマに合わせた
 - ・測定計画
 - ・他のスタッフに指導してもらう時の目安を伝えるのに活用した
 - ・体験型実習に力を入れる
 - ・対人スキルの向上について具体的な指示ができた。
 - ・態度・習慣
 - ・大筋の目標の位置づけはできた。
 - ・段階的ということを念頭に置いて、どう教えていけばよいかということを考えることができました。
 - ・知識・技能・態度の三領域で実習を分けることができた。
 - ・知識・技能・態度を盛り込むことが出来た。
 - ・長い実習中で目的を持ちながらできた。
 - ・投薬の前に必要な知識を習得させることに尽力
 - ・投薬指導 情報収集など実習内容により段階的目標をもたせること
 - ・東洋医学と西洋医学の長所を勉強目標に組み込みました。
 - ・東洋医学と西洋医学の長所を勉強目標に組み込みました。
 - ・当施設内でできない学習内容を他の施設と連携して行えた
 - ・到達可能であり、簡単すぎない事。
 - ・到達度評価のスケジュールが組みやすい
 - ・同じ内容を行うことも1週目2週目のちがいを考えること。
 - ・独自の課題や演習を実施する際、目標を設定できた
 - ・日々の業務を見直すことができた
 - ・日々の目標の作成
 - ・日本薬剤師会のスケジュール一覧表
 - ・日本薬剤師会発行の薬学生実務実習指導の手引きに従って目標作成した
 - ・日本薬剤師会発行の薬局実務実習指導の手引きのスケジュール表を参考とした
 - ・評価
 - ・評価の指標になった。
 - ・評価を行う目安。
 - ・服薬指導を円滑に行なうために、予め確認すべき事項・基礎知識など、何を準備したらよいか学生に考えさせた。
 - ・服薬指導入門時に学生と意見交換して進めた。
 - ・保険調剤、医薬品の管理
 - ・方向性が明確となり、効率的であった。
 - ・褒めて伸ばす。
 - ・毎回目標を確認するようになった
 - ・毎日作成した目標を確認しながら実習ができた。
 - ・目標とニーズをしっかりと示すようにしている。
 - ・目標に向けての実践方法を具体的に考えることができた
 - ・目標に対し学習のガイドとなった
 - ・目標の意味を学生に投げかけながら行った。
 - ・目標をとらえることで、学生さんへの具体的な指導が可能となった。
 - ・目標をとらえることで、学生さんへの具体的な指導が可能となった。
 - ・目標を設定する事によって、学生の理解度を深める機会作りが出来ました
 - ・目標を達成するためにはどのようにSBOsを組み立てていけばいいかという点
 - ・目標を達成するために必要なこと、資源の準備などを担当の薬剤師に伝えること、指示することができた。
 - ・目標を到達するために何を学習するのかを整理してとらえることができた。
 - ・目標作成する→計画→実行を全てのSBOsで考えて行った
 - ・目標達成地点をどこに置くかを決めた
 - ・目標値を設定するので指導するには好都合であった
 - ・目標値を設定するので指導するには好都合であった
 - ・薬局調剤の実践や地域で活躍する薬剤師に注力し調剤、模擬、実践投薬、在宅医療、特養の見学等を精力的に実施。
 - ・話し合うことを意識し、実習生の現状を理解するように出来た。
- 【記述 05】
2. ワorkshopでの薬学教育に関する実施内容について
- (3)学習方略について
- ③?学習方略の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか
- 活用された点が具体的にあれば、お書きください。
- ・実習計画策定時に活用できた感じだった
 - ・11週間のうちに中だるみが出ることもあり、同じ目標に到達するためにも種類の異なる方略を用意して、変化を持たせることができた。
 - ・1つの課題クリアのために、何種類かの実習方法を考えた。
 - ・1つの方略で複数の行動目標について学習できることもある
 - ・3期の人では、その差があり、レベルの違った方略を使用する。
 - ・1年前の事です。直後であれば書くこともあったと思います。
 - ・DALEの円錐の学習効果を意識して学習方法を検討できた。
 - ・KJ法
 - ・LS といった言葉だけが独り歩きしており、良く分かっていなかったが理解できた
 - ・LSについては実務上、手順どおりに進まなかった。
 - ・LSに必要な人的、物的資源を幅広く選択、活用しようと思っけた。
 - ・LSに必要な人的、物的資源を幅広く選択、活用しようと思っけた。
 - ・LSの選択肢が広がった。
 - ・LSの立案が立てやすかった
 - ・SBOsとLSの違いが、テキストではいまいちはっきりわからなかったが、理解できた。
 - ・SBOsとLSの関係について理解することができた。
 - ・SBOsを達成するために必要な学習方法や場所、人的資源、物的資源、実習時間数を予め決めておくことスムーズに学習できることが分かった。無駄もない。
 - ・SBOSを到達するための資料作成に役立った。

- ・ SBO が設定されていたので方略も立てやすかった事です
- ・ SBO ごとに方略が示されていて、それを実習に組み入れ充実した実習ができたと思う
- ・ SGD というものをこのワークショップで初めて知った
- ・ あらかじめ資料・時間配分・人員を考えることで、日常業務と両立できた。
- ・ カウンター学習までもっていくのに方略の積み重ねがあったのでスムーズにいった
- ・ カウンター系の実習に至るまでの、方略を作成して、全てこなしてから行ったため、スムーズに運んだ
- ・ カリキュラムを作成し、どのように実施するかその際いろいろな方法を検討
- ・ カリキュラムを作成する上での基礎知識となった。
- ・ これまで、個々の方略を日ごとに追うだけだったが、目標到達の道筋だと理解することで、実習が有意義なものとなった。
- ・ これまで、個々の方略を日ごとに追うだけだったが、目標到達の道筋だと理解することで、実習が有意義なものとなった。
- ・ さまざまな手段があること、それを整理して客観的に当てはめるといふ考え方
- ・ セルフメディケーションでロールプレイを行い患者の心理にも考慮できるよう指導した。
- ・ ただ、教えることだけではなく学生の理解力が十分であるか、不十分であるか観察し、その後の実務実習に反映できた
- ・ どのくらい時間をかけるか等、理解したうえで行うことができた。
- ・ どのようなことを行えばよいか考えるきっかけになった。
- ・ どのような方法で指導することが有効か理解でき適切な方略を選ぶことができる。
- ・ どのように学習するかは、学生だけでなく、自分自身の調剤経験を直視すきっかけとなりました。
- ・ どのように作ったら実習生が理解してくれるかを考えられる。
- ・ どのように指導すれば適切な目安になると思う。
- ・ どの学習方法が適しているか考えながら指導できた。
- ・ トピックに関してどのような流れで指導を考えるか。
- ・ なるべくモデル コアキュラムに従い実施
- ・ ひとつの SBO を達成するのに当薬局では具体的に何をすべきなのか計画がスムーズであった
- ・ ひとつの目標とそれを達成するための SBOs にどういう方法でどんな場所で、どのくらいの時間をかけるのか全体的に把握できた。
- ・ フィードバックして次に繋げる重要性を学んだ
- ・ ポイントが整理できた
- ・ モデルコアカリキュラムの目標の領域の意味がわかるようになった。
- ・ やはり不得意な分野を実習する際には大変役に立ちました
- ・ より学習効率が高い方略を検討するための知識が広がった。
- ・ より具体的な指導が可能になり、学生にとっても何を学ぶべきかが明確になっていること
- ・ リソースを考えながら対応できた
- ・ ワorkshop が昔過ぎて、詳細は覚えていないが、役だっているはず。
- ・ 一週毎に何を実習させるかを考えれば LS が出て来るので、役に立った。
- ・ 何をすべきか明確となった
- ・ 改めて LS を意識しなくても実習は行なえるが、知識として知っておく必要があると思う
- ・ 学習の種類を選択し、必要な資源(人・物)を準備する必要性を学べた
- ・ 学習の順序(講義→実習→テスト)という流れにと割られずに自由な発想で方略を作成することを活かされた。
- ・ 学習の方法を選択できた
- ・ 学習者の立場に立った方略を立てる事が分かったこと
- ・ 学習者自身が学習効果を高めるために意図的に工夫を凝らす
- ・ 点に着眼する必要がある。
- ・ 学習内容の達成方法を色々考える参考になった。
- ・ 学習方法それぞれの特徴について知り、どの学習方法が適当かを考案できるようになった。
- ・ 学習方法の種類
- ・ 学習方法の種類と手順、資源を準備することができた。
- ・ 学習方法の種類と順序を考え必要な資源を選択して準備することを体験できた。
- ・ 学習方法の選択について
- ・ 学習方法の選択は参考にした。
- ・ 学習方法を選択するにあたってどの方法がよいか考えることができた
- ・ 学習方略に込められた意味を読み取れるようになったことで、実習上求められる指導内容が明確になった
- ・ 学習方略のとらえ方が変わったように思う
- ・ 学習方略の達成の為に、ツールの重要性を認識できた。
- ・ 学習目標について適切であるか？また、学生が能動的に学習するためにはどのような方略にしたら良いか理解できました。
- ・ 学生が意欲的に参加できる方略の作成に役立った
- ・ 学生が学ぶ点で理解しやすいのかと思います。
- ・ 学生が理解できない点を早めに修正できる。
- ・ 学生という相手を見る目、心にゆとりが生まれた。
- ・ 学生に何をどのように教えるかが分かってくる。
- ・ 学生に教える内容を持って、自分の学習方略(情報管理の必要性など)も与えられたこと
- ・ 学生のための実習内用・時間の設定を行う時に役立った
- ・ 学生のモチベーション維持のために工夫できた。
- ・ 学生の学習意欲を刺激し、持続できる方法を工夫する。
- ・ 学生へ指導する上で段階を付けて教える事がスムーズに行えるようになりました
- ・ 学生実習に必要な資料の整理などに役立った
- ・ 基本的に全て
- ・ 既に実施している
- ・ 教える段階で色々な方向から考えてもらう様、指示
- ・ 具体的な指標がないと 11 週間何をしたいのかわからなくなる
- ・ 具体的に到達目標がかいてあるので、指導しやすい。
- ・ 具体的に方法を示す事が必要だとわかった。
- ・ 具体例には至りませんでした。
- ・ 繰り返し繰り返し学習してもらうことの意義
- ・ 現実的に対応できないものを如何に補うかを検討する役に立った。
- ・ 現場では方略通り実行できない
- ・ 個人で学習方略を考えるよりワークショップで経験したことで、片寄のない学習法になった
- ・ 効率を高める学習方法・時期を意識するようになった。
- ・ 考え方
- ・ 考え方に幅ができた
- ・ 考え方は理解できたが、それぞれの施設や指導薬剤師の経験により差異ができることはある程度仕方がないと思う
- ・ 行き当たりばったりにならず、計画的にできた
- ・ 行動目標に到達させるために他の薬剤師とも学習方法について話し合った
- ・ 行動目標を実行するためには学習方略がみつようだった。
- ・ 講義にするのか実習にするのかの判断に役立った。
- ・ 講義を減らし、より実体験を増やした。
- ・ 作成してもらった第 I 類に使用する顧客用提供文書を用いて、ロールプレイをした。
- ・ 指導する内容についてはわかっているつもりだが、方略がある事で到達度評価がしやすい
- ・ 指導の仕方に役立てた。
- ・ 指導をするうえで方向性(何が重要かなど)をあげて明確にする

- ・ 指導目標が明確化できた
 - ・ 施設の状況に合わせた法略が作成できる
 - ・ 資源(人的、物的)が具体的にあげてあるので適切な物が選べる。
 - ・ 資源の選択について、けっこう幅の広い事に気づいた
 - ・ 資料の作成に役立った
 - ・ 時間、予算、人員などを必要なもの考える方法
 - ・ 時間の経過で少し思い出せない
 - ・ 自社でできること・できないことの区別を考えた
 - ・ 自身の中であいまいだった部分の見直し、整理がしやすくなった。
 - ・ 自身の中で一度目標を見直し、整理するという方法コツをつかむことが出来た。
 - ・ 自分で考えたり、気付きを促すことでの理解度は、講義よりも高いことを実感した
 - ・ 自分よがりにならずにすんだ。
 - ・ 自分よがりにならずにすんだ。
 - ・ 実際どのような作業をどのくらい行うというものが設定できたので、スケジュールが立てやすかった。
 - ・ 実際に作成することでカリキュラム達成方法の具体化に繋がった
 - ・ 実習の方法と種類を選択する際の参考に。
 - ・ 実習の目的が明確になることで、実習内容がテーマから外れずに行えた
 - ・ 実習の目的を達成させるために、何を体験させて学習効果に結びつけるかを考察するのに役立った。
 - ・ 実習の目標がどの領域に入るかによってその内容にあった実習の仕方を考えることができた。
 - ・ 実習を具体的に実施する上での目安になった。
 - ・ 実習を行うにあたって、スムーズにできた。
 - ・ 実習を行う際の学習方法の選択肢が広がった
 - ・ 実習計画表の作成
 - ・ 実習生が各 SBOs に到達する為に必要な学習方法の種類と順序を具体的に示し、必要な(人的・物的)資源を選択する事ができました。
 - ・ 実習生にとって効率的で効果的な実習方略を立てることができた。
 - ・ 実習生に座学以外に何を伝えていくかの指標になった
 - ・ 実習生に無理を強いることがなかったように思います。
 - ・ 実習生のレベルにあった方略をもっとよりよいかたちで提案できたのでは？と WS を受けていて感じました。
 - ・ 実習生の散剤の分包スピードが少しずつ速くなった。
 - ・ 実践を知らない薬剤師教育としての学習法に役立った
 - ・ 実務実習すべてが手探りのなかで、すべてがとても参考になりました。
 - ・ 実務実習を行っていくうえでの、日々の方向性の確認。
 - ・ 実務体験して覚えるものは反復学習を主に行ない、座学での学習は極力少なめにし、飽きがこないようにビデオ等活用。
 - ・ 手引きにも具体例があったので、活用させて頂いた。
 - ・ 受け身の学習と参加型学習とでは成果が異なること
 - ・ 受動的でなく能動的な方法を考えた
 - ・ 受動的方法として講義や見学に積極的に参加するように勧めた。
 - ・ 受動的方法と能動的方法・Dale の円錐・SGD などを念頭にいれて何が適しているか考えながら行った。
 - ・ 受動的方法と能動的方法の両方が使えた。
 - ・ 初体験だったので、新鮮であり、方略作成することで実習を可視的に行えた。
 - ・ 書籍、ネットの活用
 - ・ 場所や資源を分析すること
 - ・ 人に教える方法がわかった
 - ・ 人的資源、物的資源、予算が必要ということを再認識した点
 - ・ 人的資源、物的資源を確保するために近隣薬局との連携が必
- 要であることが早い段階で分かったこと
 - ・ 人的資源、物的資源を生かすことを考えるきっかけになった。
 - ・ 説明だけでなく、繰り返し反復させて体験させる重要性を実感した。
 - ・ 全て役に立ちました。
 - ・ 全体としての目標を見失うことなく方略の作製ができた
 - ・ 相模原市薬剤師会集合研修で、補助員として参加したときに役に立ちました。
 - ・ 知識を問うのか、技能や態度を問うのかなどで使う資材や時間、SGDを取り入れるなど工夫した。
 - ・ 適した学習方法が選択できる
 - ・ 同じタイプの学習方法は飽きがくるので、持続する方法を工夫する。
 - ・ 難しい事でもとりあえず、やらせて考えさせる。
 - ・ 日常業務ではほとんどおこなわない介護保険などの学習目標のプラン時などに役立った。
 - ・ 日本薬剤師会作成指導の手引きを参考に実習を行い、時系列的に行うことができた。
 - ・ 能動的にシミュレーションをして学習する方法。
 - ・ 能動的学習方法となるよう工夫した
 - ・ 反復学習
 - ・ 反復学習の機会を多くした
 - ・ 評価しえる法略を取ることを意識できた。
 - ・ 複数の方略を用意することが必要と感じる。各個人の能力に応じて使い分ける。
 - ・ 物的資源や人的資源のバリエーションを工夫できた
 - ・ 方略の具体例が示されたので、自分の薬局に合わせて指導内容を変えることが出来た。
 - ・ 方略を決める事でピンポイントで学習できる。
 - ・ 方略を決める中で注意すべき点などが明確になった
 - ・ 方略を作ることで、複数の指導薬剤師が統一した指導が出来る。
 - ・ 方略を作成しなかったら系統だてた指導はできなかったと思う
 - ・ 方略を組むことで習得の予定がたつ
 - ・ 方略作成の具体例について話し合うことができ、参考にした。
 - ・ 本人に考えさせること
 - ・ 毎日の細かいスケジュールを組むときの参考になった。
 - ・ 明確なタイムスケジュールの作成ができた
 - ・ 目標に向かいスムーズに展開できる
 - ・ 目標に対する方略を考えながら実習の準備ができた。
 - ・ 目標に到達させるために行うことは教本の中にある程度網羅されており、自身で作出す作業をほとんど行わなかった。
 - ・ 目標に到達するために学習者がどのように学べばいいか。
 - ・ 目標に到達するために学生に何が必要かを考えることができた。
 - ・ 目標に到達するために色々な学習方法があり、また資源が必要なことを理解しました。
 - ・ 目標への道のりの確認が出来る。
 - ・ 目標を達成するための方略の意味がより深く理解できた。
 - ・ 目標達成のための方略の変更を考える事が出来た。
 - ・ 目標同様学生のレベルに合わせて考えた。
 - ・ 薬局製剤の実習計画の作成
 - ・ 様々な角度から考えること
 - ・ 用語等の内容がすでに理解できていた
 - ・ 理解度を高めるため、多面的に学習するときに役に立った。
 - ・ 立てた方略が十分にできなかった時の対応
- 【記述 06】
2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
 - (3) 学習方略について
 - ④ 学習方略の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 5年以上前に参加したWSなので詳しく覚えていない。
- ・ Daleの円錐を用いて、可視化(方法・順位・種類)
- ・ KG法
- ・ LSを挙げることで店舗のスタッフ全員の指導方法を明確化出来た。
- ・ OTC薬の選び方などSGDを利用した。
- ・ SBOsの到達がスムーズに出来た
- ・ SBOに応じてあらかじめ物理的資料や人の配置などを準備できた
- ・ SGDの方法、考え方を取り入れた
- ・ SGDを実務実習で取り入れた
- ・ ある研修会で頒布されていた副作用、ハイリスク薬、禁忌サブリーなどのシールを実際に貼らせた。
- ・ ある程度、方略に沿って実習を進めた。
- ・ いかにもモチベーションをアップさせるか
- ・ いくつかの学習方略を組み合わせたほうが、実習内容が充実した
- ・ いろいろな媒体を活用した。
- ・ インスリン、吸入器など直接手にしてのメニューによる実習など
- ・ インターネット、CD、パワーポイント、地域での講演、他施設での現場研修など可能か手段を駆使した
- ・ おおまかな部分はLSを中心にカリキュラムを組むことができた
- ・ カリキュラムをずべて、時間割でスケジュールを作成できた
- ・ ケースバイケースで方略では時間をかけたりかけなかったりで学生の状況に応じて行なった。
- ・ シミュレーション学習、ロールプレーを多く取り入れてから実践に入ったこと。また、プレテストをしてから学習に入った事が理解を深めました。
- ・ シミュレーション、ロールプレー
- ・ セルフメディケーション(OTC販売)の実習、事前の見学、メーカーさん講義、POP作成、販売実習などいろいろな方法で実習してもらった。
- ・ セルフメディケーションの実習にロールプレーを取り入れるなど、具体的な方略を考えた
- ・ ダウンロードしました
- ・ テーマを決めて宿題形式
- ・ テキストを見ながら指導する参考になった。
- ・ テキスト以外のオプション(RS)を用意した。
- ・ できるだけ「知識」「技能」「態度」を意識して、方略の選択に役立てよう努力した
- ・ できるだけ実習させた。
- ・ できる限り実習生に直接実務させていくこと
- ・ どこで、何をを使って、どう説明するかを事前に準備する事が出来た。
- ・ ながい目で見る様に努められた。
- ・ なかなか前に進まない時に話し合いの中から方略をいくつか考えてみた
- ・ なるべく学生と意見交換を行うよう工夫しました。
- ・ もう少し業務にゆとりがあれば具体的に活用できたと考えます。
- ・ ワークショップで示された人的資源(事務職員等)を活用してロールプレー等を行った
- ・ 一週毎に何を実習させるかを考えればLSが出て来るので、役に立った。
- ・ 一日一日のやることを考える際に方略を意識。
- ・ 何にでも積極的に参加してもらうようにした
- ・ 何をすべきか明確にできた
- ・ 何故この学習をしなければいけないかを自分なりに考える事が出来た。
- ・ 各LSに対し現場の資料を用意できた
- ・ 各SBOsを達成するために必要なLSを実習内容に設定する事ができた。
- ・ 各課題について、薬局業務に合わせて方略を立てることができた。
- ・ 各到達目標にステップアップできるように流れを組み立てられた
- ・ 学んだ結果が患者さんに喜ばれるなどイメージを持って取り組めるよう工夫した
- ・ 学習する順序によって理解度が変わる
- ・ 学習資源をSBO毎に精査した。
- ・ 学習資源を選択する必要性を痛感したあたり
- ・ 学習者が何をやりたいのか 何を目標にしているかを具体的に発表してもらい その為にはどうしたらよいかスケジュールをたてた
- ・ 学習方法(受動的・能動的)および学習資源(人的・物的)の順序と種類を適切に選択することが重要だと思いました。
- ・ 学習方法の選択の幅が広がった。
- ・ 学習方法の中の受動的な方法と能動的な方法について
- ・ 学習方法を選択する上で活用した。
- ・ 学習方略というものをワークショップで初めて学んだので、そのままのやり方で作成した。
- ・ 学習方略を決めなければ行動目標はクリアできない。
- ・ 学習方略を達成するための具体的な方法を考えた時
- ・ 学習方略達成の為に、ツールを事前準備できた。
- ・ 学習目標に到達するための学習方法と資源を組み合わせる準備できた
- ・ 学生と確認をとりながらの実習ができた
- ・ 学生にタイプによって、目標到達が難しい場合は方略を大きくアレンジして試した。
- ・ 学生に効率よく効果的な方法を選ぶことが出来た。学生がなるべく主体になるように学習方法を選ぶように行った。
- ・ 学生の考え方を聞くことを大切にしました。
- ・ 学生の事前学習の到達具合やモチベーションに合わせて実習できた。
- ・ 学生の進捗度に合わせて、繰り返し方略の見直しを行った
- ・ 学生の理解度をみながらいろいろな方法を考えた
- ・ 学生主体で、参加型の実習を心掛けた。
- ・ 患者さんへの投薬時の対応のしかた。
- ・ 患者とのコミュニケーションにおいての能力アップ。
- ・ 協力薬局との連携
- ・ 教授と学習の枠組みを理解することが、本来の方法を知ることになった
- ・ 具体的なコアカリキュラムに則して考えると難しいため、方略を意識するようになった。
- ・ 具体的な学習方法が標準化されているのでこれに沿って実習をすすめた。
- ・ 具体的な時間や方法が書かれていたのでそれを参考にして調整が出来た。
- ・ 具体例には至りませんでした。
- ・ 計画した方略が十分にできなかった場合、再度見直すことができた
- ・ 現場でなければ体験できない実習方法を多く取り入れた
- ・ 個人の能力の違いにより同じ学習内容でも、手段、方法を変えて指導する必要があった。
- ・ 個別に指導法を変えた。
- ・ 効率よく興味を持てるような方略の作成を考えた
- ・ 効率を高める学習方法・時期を意識しながら行うようにしている。
- ・ 考え方の視点
- ・ 講義だけでなく、討論、見学等その都度やり方を変える際、活用した。
- ・ 講義だけでなく、まず体験してから講義とかビデオをみせて実習に望むとかの組み合わせを意識しました
- ・ 講義形式や現場研修、コンピュータ自主学习など色々有効に

- 組み合わせて成果を上げることができた。
- 最終的に到達する目標について、早い時期から着手していくことで、後半に充実した指導ができた。
- 作成してもらった第Ⅰ類に使用する顧客提供文書を用いて、実際に販売してもらった。
- 指導がより具体的にさらに抜け漏れがない指導が可能になったこと
- 指導の手引きを参考に、事前準備が出来た
- 指導ポイントなどを決めて要点をまとめる事が出来た。
- 指導を行う上でのツール(口頭の説明、試験、ビデオ視聴など)の選択肢が広がった。
- 指導薬剤師以外の施設スタッフに得意な分野の指導を行ってもらったり、自習に使える資料を示すことができた。
- 施設の見学も見ただけでは印象に残らないので、質問させた。緊張していたので深く印象に残った様子だった。
- 時間的な理解程度の把握に関して。
- 時間的に効率を上げられた
- 自己学習で書籍など使用して調べ自己学習による準備をし、ロールプレイに生かすことができていた。
- 自分の勉強にもなった。
- 実習が組立易くなった。
- 実習でどのように教えていくか
- 実習に多角的な資源(外部資源やSGD)を活用した。
- 実習の各段階において、更に細分化、或いは包括的に行う場合
- 実習の具体的な内容を作るときに、法略に従って作ったので、それなりに活用した
- 実習の目的が明確になることで、実習内容がテーマから外れずに行えた
- 実習生がどんな事に学習意欲があるか選択し、刺激させる実習行動ができた
- 実習生に飽きがないよう、講義とロールプレイを組み合わせた。
- 実習生自身が学習や検索の方法を見つけ出しやすいように誘導できた
- 実習前に薬のサンプル、インタビューフォーム、添付文書などの資料を用意して、実習に臨めた事。
- 実習中でのヒアリングで過誤報告書の作成をしてもらいその後薬局の皆で討論を行った。
- 実践で教わった事以外の対処法で活用
- 実物以外に模型やDVD、インターネットを活用、デイスービスや在宅訪問、卸、メーカー営業所などを訪問した。
- 実物以外に模型やDVD、インターネットを活用、デイスービスや在宅訪問、卸、メーカー営業所などを訪問した。
- 実務実習すべてが手探りのなかで、すべてがとても参考になりました。
- 実務実習の方略は、体験・見学を中心に行っている
- 実務上必要とされる知識や技術を指導するだけでなく、それらの根本にある理論等まで掘り下げて指導できた
- 受動的学習方法と能動的学習方法の組み合わせ方。
- 受付業務、服薬指導では講義→見学→ロールプレイを繰り返し実践へと持っていった。
- 集合研修で在宅医療について講義するだけでなく、グループワークで訪問をシミュレーションさせた。
- 集合研修などでKJ法 SGD
- 順序は逆ですが、実習生に活用した案をWSで紹介して、そこに手直しを入れてもらったので、より具体的なものとして自分は理解できました。
- 場所や資源を分析して、習熟度にあわせて随時変更し成果をあげた
- 情報の共有化により、他の薬剤師にも協力してもらった
- 申し訳ありませんが、チェックが入りませんでした。
- 人的・物的資源、予算について考慮し、前もって準備できた
- 昔ながら体を使って覚えるのではなく、教えることの方が早い学習能力を得る
- 設定することにより、計画的にマンパワーを投入することができた。
- 先の参考資料の活用の仕方に変化が出たように思う
- 前項目と重なるが同じような内容も週ごとで、できるクリアのラインをかえること。
- 全てを網羅することは困難だが、自施設に合った方法で実習できた。
- 全て活用しました。
- 全体的な方略に対して、提示されたものがあつたので、それに沿って行ったため、活用度は低かった
- 総合学習を考える時に。
- 他の薬局に協力依頼した
- 他業種の方(ケアマネ、栄養士など)にも協力していただいたり、学習方法もいろいろ取り入れてみた。
- 単調な実習の繰り返しにならないよう計画した。
- 知識、技能、態度など学習内容を整理できたため、より明確な指導ができた
- 提案された服薬指導のロールプレイを実施した。
- 東京と薬剤師会の本が役に立った。
- 当薬局が薬学生の実務実習の施設であることを患者様に見えるところに掲示した。それを学生に自覚させて段階的に服薬指導のレベルを上げた。
- 当薬局が薬学生の実務実習の施設であることを患者様に見えるところに掲示した。それを学生に自覚させて段階的に服薬指導のレベルを上げた。
- 当薬局で学習出来ないことを、他の人的資源、物的資源を活用しました。
- 特に認識はしていなくても、結果的には活用して実習したと思う
- 内容に漏れがないように実習を行えた。
- 反復学習の大切さ。
- 反復学習や練習方法を少しずつ前回と変えて行った
- 反復学習をしてもらった
- 必要な時間が設定どおりにいかない
- 病院薬剤師などの他医療職連携や薬局製剤・学校薬剤師など、門前の医院や地元薬剤師会との連携により実施。
- 勉強会を数多く体験させて専門的知識を深めてもらった。
- 包略の具体的な内容が記載されているので、ネットの利用がしやすい、また書籍も買いそろえられた
- 方法の選択
- 方略に従い、各実習スケジュールをアップができた
- 方略の具体的なものがあつたのでそれによって利用してそのままつかったので特には利用しなかった
- 方略は薬剤師会のフォームを基にしてそれを少し自分なりにアレンジして使ったので作成自体はあまりしていない
- 方略を学生に理解させ、実務に結びつけていく。
- 方略を追うことで各担当が平均的な指導をすることが可能になった。
- 方略を追うことで各担当が平均的な指導をすることが可能になった。
- 方略を立てた事があつた。
- 望ましい学習目標のもつべき特徴をふまえて作成
- 目標に到達するために学生に何が必要かを考えることができた。
- 目標の領域に合わせて実習方法を選択するようになった。
- 目標到達のため様々な学習方法を検討し活用した
- 目標毎に別々に実習をするのではなく、業務中に含まれている一連の学習方法についてはそこに組み込むことで業務への負担を抑えながら実践さながらの実習ができることを意識しながら学習方法を考えた。
- 問題を作成し、有効に指導出来た

- ・薬局でのプランニングに使用した
- ・薬局自習ならでの項目、地域にかかわった実習を計画するときなどに役立った。
- ・薬剤師会ビデオ研修
- ・薬業連携に関するSBOsで、当局でSGDをおこなった。他職種(教員、MR、MSなど)の協力のもと実施。
- ・様々な学習方法を設定できた
- ・理解度が達しない学生に、視点を変えて目標に到達させるために活用した。

【記述 07】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(4)教育評価について

③教育評価の方法の作成について経験したことは実務実習を行う上で役に立ちましたか。

役に立った点が具体的にあれば、お書きください。

- ・11週間を通して実習生の成長をみてあげることができた。
- ・1つのSBOsにおいて評価する機会を複数回とれるとよいとのことで、各担当に形成的評価を日ごとにする体勢にした。
- ・1つのSBOsにおいて評価する機会を複数回とれるとよいとのことで、各担当に形成的評価を日ごとにする体勢にした。
- ・1週間毎の学習者の自己評価を読み それに対する教育者の意見を書くことで学習者の力を高められた
- ・PNPを意識して指導すると学生の向上心を高めることができ形成的評価しやすかった。
- ・SBOに適切な評価を理解し選ぶことができた。
- ・あたえた課題を評価する時
- ・あまり役に立たなかったにチェックしたが、無意識のうちに使用していたのかもしれない。
- ・いつ行うかの予定を立てることができた
- ・シミュレーションテストの方法
- ・その子のレベルに合わせた100点満点の基準を下げた評価にするということは真面目な子と不真面目な子の点数が同じになり点数だけでみると同じ評価になるのはどうかと思う。また全部項目をクリアするようになるとあるのにやっていないという段階の項目があるのがわからない。4段階なら1やった 2不十分 3だいたいできる 4十分できる でいいと思う
- ・タスクのフィードバックの仕方
- ・ただ学生に教えっぱなしではなく評価をすることで教える責任感生まれた。
- ・できなくても最低はこの成績をと大学の先生よりたのまれたこと
- ・できるまで教える。教える能力を上げる。
- ・どうしても仕事をしている評価になりやすいが学生ということを前提に評価をするということ
- ・どこまでできれば評価の 4or5 に該当するのかが客観的に評価しやすい(学生にも理解させやすい)
- ・どのように評価すればよいか何となくわかった。
- ・どの位目標に達したか決定するのに役立った
- ・どの点を評価するかの指標になった。
- ・どの点を評価すれば良いのを判断する上で役に立っていたと思います。
- ・どれくらい進んでいるかを評価し、その都度フィードバックすることの大切さがわかった
- ・フィードバックして再確認させ、高い評価につなげることを教えていただきました。
- ・フィードバックの手法
- ・フィードバックの方法
- ・まだ学生であることを認識して教育した
- ・もう少し詳しく、実例を用いて教えてくれるとわかりやすいと思います。
- ・ユニット毎の評価を行うことで学習者へのフィードバックがより細かくできた。
- ・一度に評価せず何回か繰り返して行うことで評価を行う
- ・一日の目標、週の目標、月の目標と設定し、達成度向上に努めました。
- ・一般的な良し、悪しが客観的に捉えることが出来、ぶれる事無い評価ができた
- ・何がウィークポイントなのかをはっきりさせることが出来るのでまずまず役に立ったと思う。
- ・画一的な視点だけで評価しないように心がけるのに役立った。
- ・学習方略だけではなく、5W1Hに基づく評価計画を立てておく事が、実習生へのフィードバックに大切であると分かりました。
- ・学習目標の達成を評価する難しさを認識できた。
- ・学習目標を学生と一緒に考えた。
- ・学生によって理解度が大きく異なるので、ある程度の評価は必要だとおもった。
- ・学生に何を学んだのか確認。フィードバックできる。
- ・学生の到達度評価をする場合に形成的評価の考え方が役にたった。
- ・学生の理解度を確かめる尺度について参考になった。
- ・学生の理解度を念頭に置くようになった
- ・学生を評価するとき役立つ
- ・学生を評価するのに、複数の手段を選び、プレッシャーをかけすぎることなく、シンプルに判定できたこと。
- ・感情に左右されず相対的評価が出来たと思う。
- ・基礎知識となった。
- ・基本的な考え方が理解でき、役に立った
- ・既に実施している
- ・技能・態度を主な目的とする実務実習では形成的評価の意義が大きい
- ・客観的な評価ができた様に思う
- ・客観的な評価が必要
- ・客観的に評価することが出来た。
- ・教えるヒントになった
- ・教育評価の方法には何があるか分かった。
- ・均一な評価が出来るようになった
- ・具体的な評価項目をあげることによって評価の客観性をもたせることができた
- ・具体的な方法を作成したこと
- ・具体的にはない
- ・具体的に評価の仕方が事前に学べた
- ・形のない評価というものを、目で見えるものに変換することは重要だと感じた。
- ・形成的評価、フィードバックの重要性を学んだこと
- ・形成的評価が大切で、それには、きちんとフィードバックをしてあげなければならない点。
- ・形成的評価とは何かわかったので、週報のコメントが書きやすかった。
- ・形成的評価と総括的評価
- ・形成的評価と総括的評価の使い分け方
- ・形成的評価と総括的評価の特徴について。
- ・形成的評価と総括的評価の特徴について学ぶことができた点。
- ・形成的評価の意義・タイミングなど実習にあたるに際し強く意識するようにした。
- ・形成的評価の意味が理解できた。
- ・形成的評価の使い方
- ・形成的評価の重要性への理解
- ・形成的評価の必要性がわかり、実習毎の評価の仕方が学べた。
- ・形成的評価を何回か出来るのでどのくらい実習生が理解できているのか判断しやすかった。
- ・形成的評価を繰り返し、最終的に総括的評価を行う
- ・形成的評価を繰り返して行なうことで、より効果的な実習を行なう

ことができた。

- ・ 形成的評価を効果的に行うことができた
- ・ 形成的評価を行うことで、学生の苦手なところがわかり、スケジュールを変更しながら、目標を到達できるように工夫できた。
- ・ 形成的評価を行うことで教える側も随時振り返ることができること。
- ・ 形成的評価を行うことの重要性が理解でき、取り入れることができた。
- ・ 形成的評価を積み重ねて、総括的評価を高めることができる
- ・ 形成的評価を組み合わせ進めていった
- ・ 形成的評価を多用すること、時には繰り返すことにより、理解させることができたと思う。
- ・ 月報作成時の評価に役立ちました。
- ・ 見守る事も評価であることを理解できた事。
- ・ 現場では評価するという考え方がなかった。
- ・ 現状は、学校側からの一括した評価方法が提示されるので、そこまで至る評価について、役に立った
- ・ 現状は、学校側からの一括した評価方法が提示されるので、そこまで至る評価について、役に立った
- ・ 個人差がないように気をつける事ができた事です
- ・ 口頭での確認が評価の方法となり得ることを知ったことで、実習が行いやすくなった。
- ・ 口頭での質問に対してどのように解答するかで理解度を見ることができた。
- ・ 口頭試験を繰り返す事で学生の到達度をその都度確認して実習をすすめる事が出来ました
- ・ 項目ごとにいくつかありましたが特筆することはありません
- ・ 項目を分けて評価することで、客観的に評価できる
- ・ 合否だけでなく、どこまでできているかなどの評価が必要だとわかった。
- ・ 最終的に数字で線をひくことができ、思惑に近い評価ができた
- ・ 最低限やらなければならぬことが理解できる。
- ・ 細かい点を単位ごとに評価してフィードバックすることで学習の意欲の向上と理解が得られた。
- ・ 指導者からの一方的な説明ではなく、学生にさせることで理解度を確認する事が容易になった。
- ・ 指導薬剤師の評価の軸がぶれないように統一で研修があったことが一番よかった。
- ・ 指標ができ、評価時にわかりやすくなった。
- ・ 次回への意欲につなげることが大事と知り、繰り返して伸ばすことは実践で役立った
- ・ 自ら点検・評価を行なってその結果を公表することが重要である。
- ・ 自分自身が積極的に勉強をすることができた。
- ・ 自分自身が積極的に勉強をすることができた。
- ・ 実際に評価を行う上で、理解しておく必要があると思った。
- ・ 実習の内容により実地試験、観察記録、レポート等評価の方法に違いがあることを学ぶ事ができました。
- ・ 実習者に質問を投げかけたり、観察したりして形成的評価を実施。
- ・ 実習生に対する具体的な接し方がわかった。
- ・ 実習生の個性に対応して、実習の期間中に徐々にレベルを上げていくことを目標とすることができた。
- ・ 実習生の日報へのコメント 途中経過の評価など形成的評価で
- ・ 実務実習すべてが手探りのなかで、すべてがとても参考になりました。
- ・ 実務実習成功を目指した「教育評価日」を設定し、他の薬剤師と各カリキュラムについて評価をした
- ・ 主観が入ることなく、正しく評価できた。
- ・ 主観的な評価、相対的評価になってしまいがちですが、教育評価を思い出しながら修正しつつ評価できました。
- ・ 十分理解できなかった場合の形成的評価は有効である

- ・ 順序は前後しても、最終評価に向かって弱点などを補いやすかった。
- ・ 色々な評価方法があり、それぞれに適した評価法を理解できました。
- ・ 森と木との区別をつけて評価していく点
- ・ 進行度合が明確に判る。
- ・ 進捗状況を確認できる
- ・ 成長段階を追って評価するため、双方にやりがい生まれやすい
- ・ 全て役に立ちました。
- ・ 全体を網羅できるので 現在の進行度がわかりました。
- ・ 総括的評価と形成的評価の違いが理解でき、形成的評価を積極的に行うよう意識できた。
- ・ 総括的評価と形成的評価をはっきり区別できた。
- ・ 総括的評価に陥り易いので、勤めてよい点を探すようにできた
- ・ 総括的評価を心掛けた。
- ・ 段階、系時的にみる事が出来る
- ・ 段階的に評価すること
- ・ 知識と実習(現場)は違うので評価がないと結果がわからない
- ・ 調剤(分包、軟膏、シロップ等)でどこまで出来るか目標を持って実践実習出来た
- ・ 長期的な評価だけでなく、ステップアップする事で学生の意識を維持できるという点
- ・ 点数の付く試験をおこなうわけではないので、評価が漠然としてしまうところを、なるだけ明確にしてゆく考え方。
- ・ 統一性のある評価
- ・ 日々の実務を経験させる
- ・ 筆記試験と違い、11週間の中で形成してくような評価姿勢を持つことが出来ました
- ・ 評価・指導を行う際の指標となった
- ・ 評価があることにより、理解、実行等のチェックが確かなものとなっている
- ・ 評価が均一に評価できる点で役立った
- ・ 評価が具体的になる。
- ・ 評価することに対する重要性
- ・ 評価するという行為が自分自身の評価でもあり、今後に役立てられるもの(形成的評価)であることに気づいただけでも十分役に立った。
- ・ 評価するときに参考になった
- ・ 評価する方法が分からなければ、適正に学生を評価できない。
- ・ 評価についてはもっと学習できると良かった。WSだけでは実際に評価をする場合に学習の不足を感じる。
- ・ 評価にはいろいろと手法があり、客観的に評価する為に工夫があることがわかった
- ・ 評価によっては、単位を失うのですから、統一出来る限りしなければならぬと思った
- ・ 評価に主観が入ってしまうため、またどのように評価すべきか迷う
- ・ 評価のポイントがわかり、統一した見解で評価できた
- ・ 評価のポイントの考え方。
- ・ 評価の意義・重要性理解した
- ・ 評価の意義・重要性理解した
- ・ 評価の意味がよく分かり実習の評価が出来た。
- ・ 評価の基準について、迷うことが減った。
- ・ 評価の基準をどういった点に置かが理解できた
- ・ 評価の見直しをすること
- ・ 評価の仕方を理解することにより実習中の学生の見方に変化がでる
- ・ 評価の視点が理解できた
- ・ 評価の視点をどこに置かが分かって良かった
- ・ 評価の手順について
- ・ 評価の方向性が理解できた。

- ・ 評価の方法が具体的にわかった
- ・ 評価の方法には種類がある
- ・ 評価の方法や特徴は理解できたが、「実際にどのように行うのか?」「この評価は妥当なのか?」は自信がない
- ・ 評価をされているという意識が、教授側も学生にも意味があるから
- ・ 評価を付ける以上、集団内での評価の定義統一が必要と考えられるが、かような経験が無かったため入門的に理解できた。
- ・ 評価項目(内容)を見て、実際の実習にその内容を取り入れた。
- ・ 評価者の主観をいかにして客観的なものにするか
- ・ 評価対象が、知識・技能・態度とあること。実務実習ではほとんど全てが形成的評価であるということ。
- ・ 評価方法には、様々な観点・方法があることを把握していたことにより、評価しやすくなった
- ・ 評価方法に客観性ができた
- ・ 評価方法の1つとして参考になりました。
- ・ 評価方法の違いが到達度に影響することが理解できた
- ・ 評価方法の選択の考え方が学べた。
- ・ 服薬指導や薬歴の書き方など、どのように測定するか明確にできた。
- ・ 複数の薬剤師で評価について定期的に話し合った。
- ・ 忘れていた
- ・ 目標、方略と評価の関連がよく理解でき、自分が評価を付けるときに役立っている。
- ・ 目標、方略全てを評価する。
- ・ 薬局スタッフへの評価に応用した
- ・ 様々な評価法を取り入れることで、学生の進捗度を評価するのに役立った
- ・ 様々な方法があることが分かったこと
- ・ 用語等の内容がすでに理解できていた
- ・ 理解できていない項目がわかり反復実習ができた

【記述 08】

2. ワークショップでの薬学教育に関する実施内容について
(4)教育評価について

④教育評価の方法の作成について経験したことを実務実習を行う上で活用しましたか。

活用された点が具体的にあれば、お書きください。

- ・ 「折を見て学生にフィードバックすることで、学生自らに理解度を気づかせる」。形成的評価は実習だけでなく、後輩指導にも大変役に立つと思います。
- ・ 5年以上前に参加したWSなので詳しく覚えていない。
- ・ 6段階に分けて達成度を確認した
- ・ H22年度の実習評価システムにおける評価項目の記載
- ・ PNP(positive-negative-positive)で学生にフィードバックする様に心掛けた。
- ・ PNPの実践
- ・ PNPを意識すること
- ・ PNP法
- ・ PNP法によるフィードバックで学生自身がモチベーションを高くすること。
- ・ SBOsに向かって努力した行動を評価しました
- ・ あくまで学生であるという意識が大事
- ・ あらかじめ評価方法が作成されているので、評価の参考になりました。
- ・ あるSBOsに対し、ステップアップ的に実習を行ったが、その評価方法に形成的評価が役立った。
- ・ かかりつけ薬剤師について実習前と実習後でレポートを書いてもらい、考え方が変わったか比較してみた。
- ・ くり返し実習の場合、前回実施時と比較した評価ができる

- ・ こういうふうには評価すればよかったんだ、と思える内容があまりなく、評価する側のハード面、ソフト面で千差万別のため、基準となるものもなく、非常に難しいです。
- ・ これはできた、これはまだ、これはもう少しと生徒に話すとき役にたった。
- ・ その場その場で確認することで評価を行う事。
- ・ チェックシートの導入
- ・ できるだけ形成的評価を繰り返すようにしている
- ・ テストを実施しました。
- ・ どのように評価するかという具体的な事を練習出来たので、とても活用できました。
- ・ どのように評価するのかを理解するために見直しをした
- ・ どの項目の達成度が低いか確認し、フォロー出来る。
- ・ どの時点で評価するか決める時に役立った
- ・ どれをどのようにという具体的なものは無いが、考え方を統一させる目的という意味でよかった。
- ・ フィードバックの仕方。客観試験など
- ・ プリアンケート、ポストアンケートを行った
- ・ もっと詳しくやるべきか、もう終わりにしてもいいかの判断をすることに活用。
- ・ レポート
- ・ レポートやロープレなど場面にあう評価方法を選ぶ手段を得たので、具体的に検証することができたと思う。
- ・ 何について評価するかを事前に確認できた
- ・ 何週もに渡って繰り返しの評価で学生も身につく事が多かったと思う
- ・ 各学生にそのときに参加できる学会(勉強会)に参加して医療進歩の共有も評価した。
- ・ 各学生にそのときに参加できる学会(勉強会)に参加して医療進歩の共有も評価した。
- ・ 学習と実務実習を交互に行い理解度を自分で理解させる
- ・ 学生がどのように理解しているかをフィードバックする重要性を認識するためには必要な事だと感じた。
- ・ 学生との会話の内容が変わった
- ・ 学生によって興味をもつテーマが異なるので評価が難しかった
- ・ 学生のモチベーションを上げるために。
- ・ 学生のモチベーションを損なわないように評価することができた
- ・ 学生の習熟度判断に活用した
- ・ 学生の成績評価はもちろん、教える側の自己評価と自己点検に重点をおけた。
- ・ 学生の態度変化については経過観察したことをフィードバックすることも重要であること。
- ・ 学生の到達度の確認
- ・ 学生の評価はなかなか難しいものです。いろいろ基準を考える必要があるため、ワークショップ時の資料などもずいぶん参考にしました。
- ・ 学生を総括的、形式的、両方の面から見ることができた。薬局内の薬剤師の意見も加味することができた。
- ・ 既に実施している
- ・ 気付けてあげる点
- ・ 気づきに配慮できた。
- ・ 技能の評価を観察で行ったり、態度を評価するときにレポートを書いてもらった。
- ・ 教育において、結果だけを見るのではなく、過程、変化を評価する姿勢が、大切とおもい、実習の評価に役立った
- ・ 教育者であることを自覚して評価できた。
- ・ 教育的評価の作成に、薬剤師同士の連携の重要性を認識できた
- ・ 教育評価の原則について
- ・ 教育評価の方法(論述、口頭、客観、シミュレーション、実地、観察、レポート)
- ・ 教育評価方法の作成は、薬局毎で評価の差がないよう、も

- つと具体的に作成する必要性を認識できた。
- ・ 教授側の熱意が、教えられる側に伝わる意味合いを感じさせることが最終評価という形で表される
 - ・ 具体的な数値としてみる事ができた
 - ・ 具体的な評価方法の把握
 - ・ 形成的評価。フィードバックし段階的に指導している。
 - ・ 形成的評価が出来た。
 - ・ 形成的評価が低い部分は再度繰り返し教えた
 - ・ 形成的評価で実習の進行具合を実感させ、モチベーションを維持できた。
 - ・ 形成的評価で目標に達成できなかった項目は、繰り返して評価し、総括的評価までに目標達成できるよう導いた
 - ・ 形成的評価と実習のスケジュールの乖離を調整する場合に活用
 - ・ 形成的評価と総括的評価(実習生が非常に優秀で、評価自体が難しかった)
 - ・ 形成的評価と総括的評価の特徴
 - ・ 形成的評価と総合評価の使い分けができるようになり、学生の指導に有用であった。
 - ・ 形成的評価の時には、励ましが大変
 - ・ 形成的評価の実行
 - ・ 形成的評価の積み重ね
 - ・ 形成的評価の大切さがわかり、こまめに確認しながら実習をすすめた。
 - ・ 形成的評価を繰り返し行うことで、実習をスムーズに進めていくことができた。
 - ・ 形成的評価を行うことで、学生がステップアップしているのが実感できた。
 - ・ 形成的評価を行う事で、問題点を指摘し、適切な指導を行う事が出来た。(吸入薬の指導など)
 - ・ 形成的評価を使うことで、実習生にやる気をおこすことができた
 - ・ 形成的評価を主に学習効果を検討しながら行うようにしている。
 - ・ 形成的評価を組み合わせで進めていった
 - ・ 形成的評価を多く採用した
 - ・ 結果的に学生のモチベーションが1番の評価対象だった
 - ・ 口答試験
 - ・ 考え方
 - ・ 再度方略をたて直し学習に利用した
 - ・ 再評価する事で、達成度のきちんとした評価に?がった
 - ・ 細かい評価基準がないと指導薬剤師により差が出る可能性がある
 - ・ 事前に学んだおかげで初めての評価もスムーズに行なえた。
 - ・ 時間不足や説明不足、聴取困難なLSについては、課題等を与え評価を実施。
 - ・ 実際の現場では、テキストの視点の方が評価に使いやすかった
 - ・ 実際の指導の際、学生と向き合うのに、参考になった。
 - ・ 実習を行う前にプレテスト等で客観試験を、調剤実習等は実地試験を、人権、命の尊厳、かかりつけ薬局等はレポート提出等で活用しました。
 - ・ 実習を有意義な時間にできる。
 - ・ 実習生が到達目標に不安をもつ時、できている点と、問題点を指摘し、励ますことができた。
 - ・ 実習前、実習前期、中期、後期と段階的に評価をすることで達成度を確認することができた。
 - ・ 実習前に筆記試験を行なうなどして、実習後どのくらい理解が深まったかを理解する方法。
 - ・ 実習前に筆記試験を行なうなどして、実習後どのくらい理解が深まったかを理解する方法。
 - ・ 実習中によく、学生の成長を評価できるチャンスが突然来ることがある。そのタイミングを逃さず、課題をだしたり、タイムリーな話題で、学生を試験したりできたこと。
 - ・ 実習中に同じ項目についての理解度の確認
 - ・ 実習毎にレポートにするか、観察でよいかなどの判断に活用した。
 - ・ 実地と口頭・観察などを利用した。
 - ・ 実務実習すべてが手探りのなかで、すべてがとても参考になりました。
 - ・ 実務実習の評価表の作成
 - ・ 実務実習途中、終了後の評価、フィードバック
 - ・ 週単位で見直す事が出来て、無駄を省けたと思います。
 - ・ 上記と同様
 - ・ 新人薬剤師と研修生との違いで活用
 - ・ 前期中期後期に分けて段階的に評価する
 - ・ 全て活用しました。
 - ・ 全体をべたっと教えず出来ていない点を中心に評価しつつ教えていくことが出来た
 - ・ 総括的評価と形式的評価を意識するようになった。
 - ・ 総括的評価と形成的評価の区分で明確な評価ができた
 - ・ 総合学習の時に。
 - ・ 他の薬剤師にも入ってもらい、スモールグループディスカッションを行った
 - ・ 多種の評価の方法(口頭、論述、観察、実地、レポート等)を行った。
 - ・ 誰がやっても同じ評価が出来るようになった
 - ・ 段階的に評価した
 - ・ 知識、技能、態度にあった評価方法を選択できた事、形成的評価を繰り返しながら評価を心がけた所
 - ・ 知識・技能・態度各々に応じた評価方法の検討
 - ・ 知識の確認のためにペーパーテストを作成した。
 - ・ 知識は口頭で確認、技能・態度は観察で確認。
 - ・ 中間テスト
 - ・ 調剤業務の速度
 - ・ 適切な評価方法を用いることができた。
 - ・ 同じSBOsに対する評価でも前期・中期や最終評価と評価の時期により評価方法を変える事で実習終了までに各SBOsの到達度がわかりやすくなった。
 - ・ 特に観察記録が役に立った。進捗状況だけでなく、理解していることと理解できていないことが把握できた。
 - ・ 内容の誤りや不十分な点を直ちにフィードバックするよう心がけた
 - ・ 日々、フィードバック
 - ・ 日業の評価表
 - ・ 評価する、ポイントが少しかめた。なぜ評価が必要なのか、何をもって評価すべきなのか？
 - ・ 評価する際に、学生個人の成長度を評価するようにした。
 - ・ 評価については指導者、人それぞれ！なので評価というものはあるようでない
 - ・ 評価の基準や時期の設定が難しかった。実際の実習をふまえ、再検討に活用していきたい。
 - ・ 評価の基準作成の参考にした。
 - ・ 評価の原則が分かったことが良かったが大体観察記録になった
 - ・ 評価の方法・時期を予め計画しておく事で実習を効果的に遂行し、情報収集→評価解析→フィードバック・最終判定 という流れを、スムーズに進める事ができました。
 - ・ 評価をすることで学生の理解度が確認できた
 - ・ 評価をする際には、学生との対話によって理解度を確認し、評価を行った。
 - ・ 評価を実習生と共有することにより、実習生の意識を高め、より高い評価に結果として変更になったりした
 - ・ 評価記入時
 - ・ 評価項目(内容)を見て、実際の実習にその内容を取り入れた。